

4000 名山記 2015年

1/1(木)晴れ後曇り雪 「札立山」山頂 11:50「飯森山」同 12:40「大福山」同 14:25「俎石山」同 14:45 10:40~18:00(7:20)昨日より冬の強風のため、遅い出発。登山口分からず、鶏舎口の通行止めゲート近くに駐車し周回。舗道を進み、鳴滝表示より山入り。途中鳴滝への下山となるため、尾根沿いに小ヤブの尾根登り、道に出る。鉄塔の保守道で少し行くと、平井峠と札立山分岐に出て一安心。尾根を進み札立山山頂。展望良い。さらに北の尾根を進むと飯盛山山頂。強風の中、フォークシンガーらしき人おり挨拶。関空、大阪湾等の眺め良い。三角点あり。札立へ戻り、縦走路を東へ。展望の良い(札立東山、見返り山)を経て大福山山頂。祠 2 つあり、展望良い。強風で寒さ増す。さらに北の俎石山山頂。一等三角点、山々の展望良い。北へ進み(俎石北峰:関空、大阪湾等眺め良い)大福山に戻り(籤法ヶ岳西・東峰)経て帰路へ。札立まで軽快に進み、さらに尾根伝いに戻り、途中より碎石跡への下山を敢行。道は荒れており、シダが覆い被さる道で積もった雪が溶けズボンに浸み込む。平坦な広場に出て安心と思いきや道不明。奇妙な生き物の鳴き声。雪が降り続き、茨道を払いながら奥まで進むが道なくUターン。明かり付け、惑う。尾根からの一歩手前の下山道出合いに行き、尾根に戻ろうと進むと登り口に小さな金属の案内表示(鳴滝)あり、ルートあること確認し、道探すと程なく、道見つかる。長い歩きに感じられたが、雪に濡れながら、鳴滝不動尊に出て、住宅地、近大付属高校経て、駐車口に無事戻る。

•1/2(金)曇り「雲山峰」7:45~11:45(4:00)奥畑口より周回。集落空き地に駐車し、八王子社跡経由で大福山。籤法ヶ岳、(バベ尾P366m)を経て井関峠。尾根を進み、(地蔵山)を経て雲山峰山頂。朝日、山々の眺め良い。三角点あり。地元の人にここは南の常緑樹の緑の山と違い、落葉で四季ある山であることを教えてもらう。下りは、役行者堂通るルートで参拝者と挨拶しながら戻る。

•「お菊山」山頂 13:30、「ボンデン山」同 15:05 12:45~16:00(3:15)堀河ダム上流の橋より周回。道らしきを辿り、神社道経て神社まで行き、拝み、急坂を見らしきを探して登る。鉄塔に着く。巡視路を辿り、登山道に出て、まもなくお菊松のあるお菊山山頂。関空、大阪湾の眺め良い。鉄塔路へ戻り、下りは、赤ペンキ・トラロープ等頼りに駐車地へ戻る。そのままわくわく村へ進み、今は使う人も少なそうな階段等整備された道を進む。途中崩壊や茨が覆うところあり。急坂を経て、電波塔の舗道。少し進むとボンデン山山頂。三角点ある樹林の中の山頂。展望台へより、眺めを楽しみ下山。

「鏡石山」18:45~19:35(0:50)登山口探して暗くなったが、R18 沿いの境界峠に小さな登山口表示見つけ、冬風の寒い中、月明かりに助けられ歩く。自然遊歩道から峠経て違う方向へ進み(鯛ノ峰)まで行き気づき、峠へ戻り尾根伝いに上ると丘の鏡石山山頂。三角点あり、月明かりを楽しみつつ、強い冬風の中戻る。岐路:名阪国道は降雪で大渋滞。それでも国道閉鎖前に伊勢湾道へ抜け長距離を無事戻る。

•1,2 月はしばらく冬眠か？

冬眠前の遠征歩き

•1/10(土)岐阜東1山「二ツ森山」15:10~17:00(1:50)一度歩いた笠置山を2度目山歩きし今日2山目。切越峠より往復。雪あるも、登山者多く、踏み跡を辿り、尾根伝いにアップダウン繰り返して二ツ森山山頂。二等三角点、大きな岩の山頂で、恵那、中央ア、街並みの眺め良い。展望小屋あり。雪を楽しみながら、植林地の尾根を戻る。

•1/11(日)三重北部 4 山 晴れ時々曇り

「錫杖ヶ岳」7:05～8:50(1:45)間谷林道通行不能手前に駐車し、削れて、土砂崩壊が一部覆う林道を終点まで進み、急坂の尾根に取り付く。ゆっくり高度を上げ、急斜面を足場等確認しつつ、慎重に尾根を辿り、テープの案内出て安堵。気の抜けない尾根急坂をさらに慎重に進み、平らな尾根。さらに雪の尾根、急坂進むと大岩でトラロープある大岩の急斜面。無理と観念して、巨大岩を右へ回り込み、本道に出会い、すぐに錫杖ヶ岳山頂。朝日、鈴鹿の峰峰、街の眺め最高。1人先客の地元の人と山話。来た道は、崩壊等で今は登る人ほとんどいないとのこと。下りを心配してもらい、来たルートに戻る。(前錫杖ヶ岳)を経て、崩壊地等確認しながら慎重に下り、白テープを辿る。来たルートとあまりに離れたため、途中の尾根を下ると、沢にでも、道らしきに辿りつかず、さらに一山超えると林道が確認でき無事戻る。

「霊山」9:40～10:50(1:10)霊山寺より往復。駐車場に車数台あり。自然歩道の道案内(合目表示)に励まされ、急ぎ足で整備された植林地の中の道を進み、石段登ると霊山山頂。一等三角点、山々、街の眺め良い。無線中継設備あり、車道も来ている。人気の山で幾人かに挨拶し、急ぎ足で戻る。

「油日岳」山頂 12:00「那須ヶ原山」同 13:35 11:30～15:40(4:10)奥余野登山口より周回。通行止めまで車で入り駐車。すぐ三馬谷小屋で左の水竜・天竜の滝を沢沿いに進み、急坂を尾根に出て登ると油日岳山頂。神社あり、里の眺め良い。少し雪がある中、尾根伝いに進み(加茂岳、忍者岳)を経て山容の良い(三国岳)山頂。はるかかなたに那須ヶ原が見える。急坂等を下り、登り返しを繰り返す(三点確保の案内表示あり)て、冬強風の中、はるか先に見えた那須ヶ原山山頂。三角点、神社あり、鈴鹿連峰等の眺め良い。南鈴鹿の縦走ルートを進んだが、那須ヶ原への簡易なルートあり(学校の登頂表示あり)。天候回復し、陽光、雪を楽しみながら尾根を三国岳まで戻り、周回ルートへ進む。不鳥越峠へ下り、下山ルート確認し、三国より見えた倉部山を往復し、不動谷を下る。土砂崩れ等で崩壊が進む中、テープ等頼りに下り、旧林道を経て三馬谷口に戻る。近くにすぐ歩ける山なく、今回の遠征はここまで。遠々と運転して帰路につく(走行距離 1600km)。

1/17(土)晴れのち曇り 新日本山岳誌以外の山歩き 栃木中部(2山) 13:30～17:30(4:00)古峰神社口より周回。関東ふれあいの道を進み、三枚石新道口より入山(健脚者限定表示あり)。植林地より道不明で沢沿いに進み、急斜面の獣道を経て、本道に合流。尾根に出て雪の急斜面を寒風うなる中、ゆっくりと進む。途中より左へトラバース気味に進むが、雪が少し深くなり、一歩一歩がゆっくりとなる。灰色の空の下、寒さに震えつつ、不安げに進み、ゆるやかな尾根から三枚岩の神社に飛び出し安堵。一部雪に靴跡あり。尾根を南下して進むと電波塔のある(方塞山)山頂。陽光、牧場等展望楽しみ、強風の中、尾根を戻り三枚岩。さらに北上すると今回目標にしていた(古峰原)山頂。雪の中から掘り出した三角点と表示板確認。積雪 30cm前後。方塞山より少し低い。樹林の中で展望今一つだが、古峰ヶ原高原の中心部。さらに北へ急ぎ足で二ノ鳥居、一の鳥居を経て古峰ヶ原峠と駆け下る。車道あり、尾根伝いに先に山あるが、雪深く、道不明瞭なため、関東ふれあいの道を急ぎ足で下山。沢筋の崩壊しつつある道を通り、再び車道に出て三枚石新道入り口を経て薄暮に神社に戻る。関東 100 名山に王手(残り 1 山は伊豆七島の山)。

1/25(日)晴れ 新日本山岳誌以外で八甲田(青森)1山 (逆川岳)9:00～12:20(3:20)八戸山水会の山スキー山行に参加。総勢 15 名で城ヶ倉大橋口駐車場より往復。風のない絶好のコンディションの中、急斜面の尾根にシールつけた山スキーで取り付き、雪を半分被ったブナ林を楽しみながら高度を上げる。徐々に体もなれ、太陽の方角に向かってペースを上げて進むと本当の樹氷群に会い感激。木についた雪の塊が怪獣みたいに見える。なだらかな丘となり、雪の岩木山、青森市街、八甲田連峰の眺め楽しむ。さらに進むと(逆川岳)山頂。南八甲田の山々等の眺め楽しむ。風がない。一息入れ、シールを外し、下山開始。新雪の滑りを楽しむ。途中雪テーブルでゆっくり昼食後、ブナ林の新雪を満喫してあつというまに登山口に戻る。

厳冬期にこの好天の中、ブナ林・樹氷・八甲田連峰、岩木山等の眺めをゆったり楽しみ、また新雪滑りを堪能して大満足。八戸山水会に感謝。

中部遠征編 1/30(金)休み・1/31(土)7山

・1/30(土)岐阜東1山、三重北部1山「高峰山」12:10~13:40(1:30)鎮野峠より往復。小雨の中、鎮野峠手前より林道進み、上へと植林地を登り、尾根に出て登山道に合流し、作業道を眺めながら進み、植林地より開けた平坦な高峰山頂。二等三角点、神社あり、南方開けてるが、視界なし。尾根伝いに登山道を峠まで下る。雨続き。「多度山」曇り 19:20~19:40(0:20)ゆっくり移動し、多度神社より、林道(舗道)を車で進み、多度山上公園。月明かりで、階段を登るとすぐ多度山山頂。二等三角点、名古屋の街明かり、木曾三川等眺めよい。

・1/31(日) 三重中部5山「堀坂山」5:45~7:10(1:25)曇り雪 冬の強風の中、堀坂峠より往復。急坂を淡々と進み堀坂山山頂。三角点あり。強風に雪模様で、3人に会うも視界なく、すぐ下山。堀坂峠より向いの観音岳へ(7:10~9:05)。ピークを歩き尽くす(観音岳、東峰、北峰、城ヶ峰)。「髯山」9:10~10:05(0:55)清水峠より急坂を辿り髯山山頂。三角点、祠、展望台あり、陽光心地よい。来たルートを慎重に戻る。「高須ノ峰」11:40~13:25(1:45)蔵ヶ野林道舗道終点より丁の表示に従い沢筋を進むが、岩場となり、止む無く、右の急坂をよじ登る。尾根に出て方向確認し、進むと高須ノ峰山頂。二等三角点、樹林の中、少し展望あり。外した尾根道を一気に下り、沢を渡って、登りの道と合流し戻る。登り口では、誰も分かりえない分岐。表示4丁の少し下で沢を横切る。「局ガ岳」14:25~16:15(1:50)新道ルートを往復。整備された道の急坂をつづら折れにゆっくり登る。途中より冬の強風。局ガ岳山頂も強風で雪が舞う。三角点、反射板あり。急ぎ足で下山。「白猪山」17:05~18:35(1:30)夏明登山口駐車場より、舗道の道を急ぎ足で登る。神社のある(二ノ峰)からの展望良い。さらに雪の急斜面を進み、アンテナを経て白猪山山頂。二等三角点、月明かり、街明かり楽しむも強風のため、すぐ下山。薄暮でライトつけ、淡々と戻り、堀坂、局、白猪の伊勢三山を踏破。冬型の天候で雪も舞うため、今回はここまで。

新本山岳誌以外の山編

・2/7(土)晴れ 百山紀行ふくしま編。福島南(入道山)14:35~15:30(0:55)地元の人に山等教えてもらい、松林地区より周回。林道らしきを小藪を払いつつ進み、植林地の急斜面に取り付き、道らしきを進み、植林地を経て、馬頭観世音を拝み、さらに急坂進むと入道山山頂。一等三角点、陽光と樹間からの眺め楽しみ、来たルートを辿り、途中より境界表示へ下り、標石確認し、来た林道経て戻る。向かいに見えた(矢野山)15:30~16:30(1:00)入道山の清水より境界表示を進み、笹の小藪等経て矢野山山頂。樹林の中で、陽光・樹間からの眺め楽しみ戻る。

2/8(日)曇りのち雨 百山紀行ふくしま編福島中南部(檜山)6:40~8:20(1:40)友情の森より遊歩道を経て林道に出て、さらに雪の山道を淡々と進み、平坦な檜山山頂。二等三角点、雲海と山々の眺め楽しみ下山。向かいの(矢祭山:8:25~9:35)矢祭公園より遊歩道を進み、急斜面の植林地の尾根を進むと矢祭山山頂。電波塔・石碑あり、雲海等の眺め楽しみ、戻る。(丹波楯山)12:25~13:25(1:00)林道峠より境界標目安に進むも、茨に苦戦。尾根を進むと本道に出会い、後は淡々と進み丹波楯山山頂。二等三角点、積雪15cm。小雨続きで視界なく、すぐ戻る。(岩瀬の妙見山)13:50~14:35(0:45)松本神社より小雨の中往復。山頂は、大きな神社あるも展望なし、積雪30cm。(長沼の妙見山)15:25~17:05(1:40)登山口まで雪の急坂の林道で車登れず、途中に置き山入り。先人の車の跡、雪靴跡を辿り進むも、雪が多く、途中進めなくなるか心配しつつ進む。雪に潜りながらの先人の雪の足跡に助けられながらゆっくり進み、飯豊和気神

社のある妙見山山頂。雪多く、神社の後ろは屋根に届く雪。途中より雨止み、わずかな展望楽しみ、雪を楽しみながら、急ぎ足で戻る。

2/21(土)晴れ三重中部4山、滋賀東部1山「鈴鹿峠(鏡岩)」山頂 7:00「高畑山」同 9:00「三子山」同 10:35
6:45～13:05(6:20)鈴鹿トンネル土山宿より周回。東海自然歩道進み、鈴鹿峠。植林地の中。西へ向かい鏡岩。眺望良い。さらに尾根伝いに雪とあせびの雪塊をさけつつ、雪に潜りながら、尾根を進み、高畑山山頂。三角点、朝日、青空、海、雪の鈴鹿連山等 360 度の大パノラマを満喫。心地よい春風を感じる。さらに奥に潜りながらアップダウン繰り返して進むと(溝干山)。奥の峠からの靴跡あり。溶け始めた雪を楽しみながら尾根を鈴鹿峠に戻り、今度は東へ。自然歩道の整備された道を経て、(三子山南峰、中峰)と植林地を上り下りして進み、三子山(北峰)山頂。鈴鹿連峰等の眺め良い。さらに奥に峰あり、深い谷まで下り急坂、やせ尾根等経て(四方草南峰、四方草山:三角点あり)。ほとんど休まずの歩きで戻りの三子山北峰で気持ち良い天候の中、ゆっくり昼食後戻る。「サクラグチ」13:55～16:05(2:10)鈴鹿スカイライン野州川ダム上流の深山橋登山口より往復。植林地を進むが、雪が意外と多く、吹き溜まり等で一部膝以上に潜りながらも、雪の少ないところをゆっくり進み平らなサクラグチ山頂。陽光、樹間から展望を見て、来たルートに戻る。大きな岩々は慎重に上り下りしたがスリルあり。「福王山」18:05～19:50(1:45)明日の天候不明なため、ライトつけ夜行登山。福王神社に駐車し、舗道の急坂を進み神社。暗く道不明のため、裏の山へ獣等の道らしきに登ると、奥の院の参道に合流。急坂進み奥の院を拝み、道らしきを辿り、少し小高い福王山山頂。四日市の街明かりを楽しみ下山。下りは、林業道の尾根を進んでしまい、途中より獣道らしきをトラバースし何とか参道に出会い安堵し戻る。これで何とか 2000 名山踏破。先はどうなることやら? 翌日未明雨降り出し、今回の遠征はここまで。

2/27(金:休み),2/28(土)岐阜東2山、三重北部1山

・2/27 晴れ「尾城山」9:30～11:45(2:15)中出林道途中に駐車し往復。林道を進むと登山口案内表示を2度確認し、岩・雪がある道を進み、登山口。植林地の中の道を進むと雪深く・柔らかくズボズボ潜りながら東屋のある広場の尾城山山頂。二等三角点、陽光、冬風、山々の展望楽しみ、来た道の踏跡辿り戻る。

「高天良山」14:20～16:05(1:45)火打峠より往復。植林地の境界表示・テープ等頼りに尾根伝いにアップダウン繰り返して高天良山山頂。二等三角点、山々の展望・陽光楽しみ戻る。

・2/28(日)晴れ「御池岳」伝説のハイカー編 7:00～16:15(9:15)鞍掛峠道R306 冬季通行止めにつき、近くの冷川林道に入り、山口配水池のある白瀬峠登山口より周回。猟の人に登山口教えてもらい、植林地道から沢・植林地を経て案内表示で先行の3人組に追いつき、すぐ鉄塔路の道と合流し、堅雪の尾根を淡々と上り、分岐。先行の地元の人にルート概要を教えてもらい、白船峠へ向かう。トラバース道で誰も通行してない、雪の急斜面をストック・ピン付長靴で、慎重に進む。目印のテープを辿り進むが広い谷に出るが進路不明。トラバースし急斜面を南面のズボズボ入る軟雪に苦労しながら、急坂を北側へ回り、堅雪となり、急坂を登り進むと白船峠に出て安堵。尾根伝いに進み(荷ヶ岳)を経て尾根より下るとコクルミ谷ルート(通行止め表示あり)と合流。地元の人に挨拶し、一気に堅雪の急坂進み 1P。山容分り、谷に下り、急坂を淡淡と登り、踊り場を経て御池岳山頂。本日一番乗りの新雪、晴天、山々の 360 度の大展望楽しむ。標柱が見え、鈴鹿の最高峰に満足。奥に山の連なりあり、尾根伝いに進み(奥の平)山頂より展望楽しむ。御池を経て踊り場に下り、又地元の人に会い、足取りの速さに驚かれる。絶好の天気満足して山話し、鈴北岳を教えてもらい直線ルートの雪面を進む。暖かくなり、雪に潜り苦戦していたところ、先方より来る地元の人あり。挨拶し、鈴北から来たと教えられ、足跡辿り、雪の平原を経て進むと(鈴北岳)山頂。伊吹山等の展望無し。先に藪で行きにくい、鈴ヶ岳見え進む。鞍部に下り、南面の軟雪に潜りながら、急坂をゆっくり上り、

今日目標の(鈴ヶ岳)山頂。平坦だが展望楽しめる山頂で、新雪・りんご・オレンジジュースで即席のシャベットに至福の時(晴天もあり)。戻りも足跡辿り、難なく鞍部に下り、堅雪を登り、鈴北でゆっくり昼食。戻りは、途中ショートカットし三叉路分岐に出て、谷に下り、来たルートに合流し一安心。幾人かの足跡あり(最初足跡もなかったが、即席の雪道ルートとなる)。1Pに戻り、急坂を一気に下り、コグルミ谷分岐経て尾根を登り下りし白船峠。奥に山あり、尾根を藤原岳方面へ登り、鉄塔のある(頭蛇ヶ平)山頂:二等三角点、平野・海、360度の大展望楽しむ。堅雪の急斜面を慎重に下り、途中から楽しむように雪道の尾根を一気に下る。峠分岐を経て地元の同じ人に今日4度会う。最初に出くわした3人組とも会い、歩き方に驚かれる。尾根からの分岐を慎重に探して来たルートが無事戻る。夏道では味わえない雪山歩きを堪能。疲労出たが、おNEWのピン付長靴の歩き初め、好天、雪山に感謝。11月例会の下見編。翌日待機したが、未明より雨で今回の遠征はここまで。

3/15(日)晴れ Fukushima百山紀行編、福島中部1山(高森山)10:55~14:30(3:35)前日新雪 60 cmを途中までかんじきの踏み跡つけたため、高森集落・R115・レークライン分岐(麓より山の山容が絵になる)より軽快にツボ足で昨日の地点まで進む。かんじきを付け、昨日より溶けた雪面を2mの空洞等に注意し進む。急坂は、ゆっくり足元を確認して進み、平坦な1P。尾根伝いに見える山頂目指し、一旦鞍部まで一気に下り、やや堅雪で歩きやすい尾根を境界の赤ペンキ目安に、雪庇・ケレバスに注意し、軽快に進み、高森山山頂。磐梯山・吾妻・安達太良連峰の白銀の山々の大展望を楽しむ。晴天で風なく、途中より下山まで半袖シャツ。戻りは来たルートを着実に下る。かんじきの筆下しには、恰好のヤブ山歩きで、春山を満喫。

・ 3/20(金)休み~3/22(日)遠征編。

3/20 岐阜南1山「笙ヶ岳」13:35~19:55(6:20)曇りのち晴れ 養老山系大洞林道ゲート口より周回。遅いスタート。林道を1時間強歩き、終点が登山口。溪流沿いに道を確認しながら進み最後右に沢を上ると三叉路の分岐。西の沢へトラバースし、山を巻いてテープを目安に進み笙ヶ岳山頂。三角点あり、陽光と春霞の中の展望あり。分岐に戻り、遅いながらも奥へ進む。もみじ峠・笹原峠を経て(小倉山:園地散策)で展望楽しむ。さらに進み2度目の養老山山頂。夕日・一等三角点。急ぎ戻り笹原峠より少し下り(三方山)山頂。養老等街並みの展望楽しむ。峠へ戻り、尾根伝いに急ぎ足で戻る。三叉路分岐で薄暗く、溪流に下り、ライトをつけ慎重に道を確認しながら下る。林道終点の登山口に出て一安心。後は鹿の気配を感じながら黙々と歩き戻る。

・3/21 晴れ 岐阜西「南宮山」6:20~8:30(2:10)南宮神社より整備された階段等の登山道を進み、展望台。街並み等の展望を楽しみ、関が原の戦いの毛利家の布陣跡に思いを馳せる。地元の人に山頂はさらに奥と教えられ、幾山か越えて、南宮山山頂。二等三角点、樹林の中、陽光楽しむ。来たルート心地よい天候を楽しみつつ戻る。後は、米原駅まで行き、やまゆき会総会に参加。

・3/22 晴れ 滋賀東「霊仙山」6:50~9:50(3:00)樽ヶ畑登山口(養鱒場奥)より周回。前の人に続いたら道を間違え戻り林道終点より山入り。集落跡、小屋を経て、植林地を登ると汗拭峠。尾根伝いに進むとお猿岩(7合目)で丘の山々が幾つも見える。ショートカットして(経塚山)さらに最高点を経て霊仙山山頂。二等三角点。晴天の中、鈴鹿山系、伊吹山等のパノラマ展望楽しむ。地元の人と山話して、残雪・獣道をトラバースし大幅にショートカットし下る。お猿岩で本道に合流。幾人もの登山者(年配者・若者等)とすれ違い、人気の山を実感。暖かく、登り途中より半袖で心地よい山歩き。天候良いが、帰りを考え、今回はここまで。

・ 北陸遠征 3/28,3/29

3/28(土)晴れ 飛騨 1 山「漆山岳」ヤブ山残雪期 11:35~16:35(5:00)バス停 西漆山近くに地元の方

の了解を得て駐車し遅い出発。神社口より往復。高めの気温が続き、軟雪で長靴のツボ足で潜りながら、潜り過ぎる所は足場固めしつつ登る。急坂を日差しの強さを気にしながら進む。軟雪で気持ち程前へ進まないが、杉植林地、檜・ブナ混交林、ブナの巨木に癒されながら尾根を進む。暑くて途中から半袖シャツで最後まで通す。踊り場で一息つき、淡々と急坂登り、反射板経て漆山岳山頂。360度の大パノラマ。青空と雪の白山山系、御岳、乗鞍、笠、槍、薬師、立山、剣に加え、富山市街等の展望楽しむ至福の一時。下りは、足跡を辿り、潜りながらも軽快に戻り、駐車場の方にお礼述べる。暑さで大汗かき、軟雪歩きに苦勞し、疲労困憊。集落の方に教えてもらった割石温泉で汗を流す。

・3/29(日)曇り 富山南 2 山「小佐波御前山」3:45~6:55(3:10)猿倉森林公園は、富山の夜景のメッカか、夜中じゅう、車の出入り活発。公園より往復。暗いうちに出発。すぐ(猿倉山:三角点あり、夜景キレイ)。遊歩道に沿って進む。カモシカに幾度か会う。軟雪に潜りながらも、(御前山:遊園広場)。さらに遊歩道を雪の足跡等頼りに、進む。明るくなり、山容見えたが、軟雪で気持ち程足が進まず。急坂を経てなだらかな小佐波御前山山頂。富山市街、雪の山々の展望良い。来た足跡を着実に踏み、戻る。

「夫婦山」8:30~11:00(2:30) 天気が持ったため、もう 1 山。養豚場まで除雪された小井波より往復。遊歩道を軟雪に苦戦しながら、先人の跡、テープ等頼りにかなりショートカットして松瀬峠。急坂、植林地経て男峰山頂。展望良い。峠まで一気に下り、急斜面を残雪を拾いつつ登り女峰山頂。雪山・富山平野の眺め良い。急坂のため、ゆっくり慎重に峠まで下り、足跡を辿り、ショートカットで戻る。2 日共、気温高く、全て軟雪で苦勞。良いトレーニングにはなったが。

・4/2(木)福島編(花見山)晴れ 5:40~6:35(0:55) 文字どうり朝飯前に散策。花見山公園口より桜の開花した山裾、菜の花畑、黄色のレンギョウ、赤のボケ等春の色彩を楽しみ散策。花見山山頂で日の出、福島市街の眺望楽しみ、桜の並木を通り戻る。福島の観光名所で桃源郷。一度は見る価値あり。

・新日本山岳氏誌以外 大阪遠征編

・4/12(日)晴れのち曇り 大阪府チャレンジ登山上級コース 歩行距離約 36km にやまゆき会の仲間 6 人と参加(私は 10 数年ぶりの参加)。6:00~15:00(9:00) 受付地点で記念撮影し、4名一緒にスタート。各人のペースで進む。最初のチェックポイント竹之内峠でボランティアのやまゆき会のメンバーに大歓迎され、力餅の差入れを頂き、勇気百倍で進む。次のチェックポイント以下CPと略す(岩橋山)で一息入れ、幾度か登った葛城山CPでレモン水をおかわり。山頂で展望を楽しみ、ダイヤモンドトレイルに戻る。水越峠へ急坂を駆けるように下り、林道を経て急坂の登りののち、金剛山CP。バナナ、ポカリをおかわりして一息入れ、久しぶりに金剛山山頂に寄りお参りしCPに戻る。少し進み分岐を進むと(湧出岳:一等三角点、鉄塔あり、樹林の中)山頂。トレイルに戻り途中で、軽装で進むTさんに抜かれる。平地・下りでは、カラフルないでたちの女性に抜かれ、少々滅入る。疲れが溜まる中、淡々と進み、(中葛城山、高谷山、神社のある神福山)の各山頂を踏み、行者杉峠のCP。ドリンクをおかわりし一息入れる。(タンボ山)山頂へ寄り、ぬかるみ等の多いトレイルを進む。最後は尾根から急坂下り、舗道歩きが長く感じられたが、無事天見駅にゴール。先に到着したTさんは 1.5H以上早く到着と聞き、ほとんど併走するマラソンの世界に近いと啞然とする。無事5名が完踏しささやかな祝杯と記念撮影。帰路の電車でIさんに会い、やまゆき会で上級コース6名の完踏を知り、久しぶりに感激。手配・案内してくれたTさん、竹之内峠等のボランティアの方々は大感謝。朝から晴れて天候にも恵まれ、CPでのおもてなし、沿道の応援など記憶と記録の残る充実した大満足の1日で、スタッフの方々ほか皆様に感謝いたします。

・北陸遠征編

・4/18(土)19(日)金沢3山、石川南2山

・4/18 晴れ 伝説のハイカー編「水葉山」山頂 14:15「庄司峰」同 15:30「拳原山」同 16:20 11:10~20:20(9:10)いずれも藪山でルート不明につき、熊走集落に車を留め、ショートカットし犀鶴線舗道を進む。途中林道に入り、急斜面を慎重に登り、上の鉄塔、舗道の見える尾根に出る。あとは、残雪を拾いながら尾根、ブナ林の中を進む。1P目は、(二輪山)で標識で確認。尾根伝いに次のピークに進むが標識なし。已む無く次ぎのピークへ尾根を鞍部に下るに従い、本来のヤブ山が姿を見せる。笹・灌木等を獣道らしきを進み、雪面を登ると目指した水葉山山頂到着。標識で確認。さてスタート遅れと道不案内をどうするか。天候快晴で雨等の心配なく、先のピークと思しきを目指し進む。ルートミスし一旦下り、トラバースして谷を登り返し、尾根に出て残雪を進む。尾根の雪のないところは、夏道・獣道らしきあり、その道を利用し、途中やせ尾根の藪はゆっくり書き分け進み次ピークが庄司峰。展望良い。目指す山はさらに先。尾根を雪を拾い慎重に進む。次のピークより、ブナの森となり、雪の急斜面を慎重に滑り下り、ブナ残雪を楽しみながら進むと念願の拳原山山頂。街の遠望、奥の林道・沢等の眺め良い。遅い時刻のため、すぐに引き返す。尾根、踏み跡等確認しながら、藪を掻き分け、来たルートを着実に戻る。途中夕日が見事。二輪山で薄暮。来た時の堅雪は、軟らかくなったが、潜る程でもなく、絶好の残雪歩き。鉄塔・舗道に出て一安心し、ライト付け、淡々と舗道を確認しながら戻る。春となり、藪も顔を出しているが、ルート不明な中、晴天で春山を大満喫。

・4/19 曇りのち雨「鳥越城山」6:05~6:35(0:30)城跡駐車場まで車で入り、城跡を散策。手取川等の眺め楽しむ。近くの大峰を探したが見つからず、残雪で黒間が奥まで進めず、鉄塔路を尾根に出てピークの大岳山(二等三角点)で、白山連峰等の眺め楽しみ山探し。それらしきかはるか先に見えた山と後で確認。「雲龍山」10:25~11:45(1:20)吉野工芸の里で裏山の登山道らしきを教えてもらったが、位置不明。已む無く、遊歩道よい、沢入り。沢より急斜面の尾根に取り付き、手・足、バランスを崩さないよう、獣道らしきを上へ上へ登ってゆく。気にならない程の小雨で、頂上近くはなだらか。木々を書き分け進むと道らしきあり、間もなくピーク。小さな標識で雲龍山山頂を確認。樹林の中で展望今一つ。雨らしくなる中、急ぎ足で戻る。急斜面は、木等に捕まりながら慎重に下る。急斜面敬遠したため、早めに沢へ出た。巻き道等慎重に下り、雨降りが本格化する中、無事戻る。昨日目一杯歩き、今日は、軽めであるが山歩きが満足の二日間。

・北陸遠征 4/25,26

・4/25(土)飛騨1山ヤブ山「横岳」晴れ 12:10~17:40(5:30)バス停「土」より跡津川沿いに進む。通行止で地元の人に会い、了解を得て奥まで進み、佐古集落に駐車し出発。林道ゲート、神社を経て伐採林道終点まで進み、尾根に取りつく。沢の左側の獣道らしきを登る。途中より、残雪が出て、拾いつつ、分岐尾根に。テープあり、さらにピークを目指し進むと平らな山頂の(高幡山)。ブナ樹林にかけられた標識で確認。遙か先に目指す山が見え、ルート取りを考え尾根を下り、鞍部は崖の状態につき、回り込み、雪上の沢、雪解けた沢を渡り、残雪を探して進む。窪地の残雪を経て尾根に出て、後は雪上歩き。さほど潜らず、ただ広い尾根に出て先に頂上が見え、軽快に進むと平坦な横岳山頂。ブナの地上5mに小さな標識を確認。360度の展望で、雪を被る乗鞍~剣まで見え、白山山系まで見え、しばらく時を忘れる。下りは来たルートを着実に辿り、遅いスタートながら明るい内に戻れた。地元の方、天候、残雪に感謝。

・4/26 「伝説のハイカー編」飛騨2山、ヤブ山「池ノ山」山頂 7:50、「六谷山」同 10:45 5:15~15:50(10:35)雪のため林道断念し土集落神社より、獣道らしきを辿る。急坂のヤブの尾根をヤブの薄いところを掻き分けながら、登る。最初は電波線目安に進み、あとは尾根らしきを方向確認しながら進むが、雪がなく、時期を間違えた気がするが、やむなく淡々と上へと進む。尾根ピークに出て、残雪確認し一安心。雪は堅く、歩き易い。急坂は、雪のないところを経て、残雪の端を慎重に登り、境界尾根に出る。あとはすぐ池ノ山山頂(昨日林道から見かけたカミオカンデ施設のある山頂)。小さな標識で確認。昨日登った横岳も見え、ヤ

ブ漕ぎでかなり疲れたが、時間は早い。遙か先に昨日も見えた六谷山を目指す。尾根、境界を残雪を楽しむように進む。ただ、ルートを変えたか、急坂を下りる羽目に。最初は気を付けたが、途中気を抜いたか、2度ピンの減った長靴が滑る。木を掴めて事なきを得たが、くわばら、くわばら。あとはゆっくり慎重に沢の鞍部に下り、沢の残雪を渡り、残雪を拾い尾根に出て、境界らしき尾根を進む。尾根ヤブを避け、残雪の急斜面トラバース、残雪の急坂下りや鞍部からの急坂の登り等を経て茂住峠・六谷山登山口。疲労の色濃く、2体の地蔵を拝み、食事小休止。夏道があり、夏道、残雪利用し、淡々と尾根を進む。山頂尾根に出てさらに尾根をアップダウンして平らな六谷山山頂。三角点は雪の中。昨日と同じく、北ア等雪山の眺めを大いに楽しむ。富山平野も望め、雲一つない晴天に大満足。来たルートを辿り、峠に戻る。尾根を越え、鞍部に下り、沢伝いに進むと雪解けした沢が顔を出しており、冷たい沢水とジュースを楽しむ。道不明につき途中より、急坂登り尾根に出て、ルートを確認。残雪を拾い進む。来たとき間違えたルートを見直し、残雪の歩けるルートを確認して鞍部に下る。同じく沢水・ジュースを楽しみ一息入れる。急坂の残雪をゆっくり、登り、尾根に取りつき、来たルートに戻り、後は淡々と残雪の尾根歩き。池ノ山に戻り、残雪の急坂は、雪が緩み歩き易く、楽しみつつも慎重に下り、ヤブ尾根突入。来たルートだが明確な表示もなく、時折方向を確認し、行きにつけた紐を回収しつつ下る。途中ルートを間違え、ブナ林の急坂に出て、トラバースを繰り返しつつ急坂を慎重に下り、無事林道に出て安堵し戻る。2日間共またとない好天で残雪とヤブ山と雪の北アの大展望を満喫。

・GW北海道シリーズ。

・5/2(土)、3(日)伝説のハイカー編 両日とも晴れ 日高山系ヤブ山5山

5/2「トヨニ岳」山頂 6:55「ピリカヌプリ」同 10:20「ソエマツ岳」同 13:50

5/3「野塚岳」同 10:25 5/2 3:35~18:50(15:15)、5/3 4:05~11:20(7:15)

・野塚トンネル十勝側駐車場より周回。未明の薄暗い中、出発。雪解けの沢水の勢いあり、渡渉探し、上流へ登り、残雪利用し難なく渡る。残雪の急斜面に取り付き、若干の軟雪に助けられ、慎重に高度上げ、支尾根で一息。やや固めの残雪に助けられ、主稜線尾根へ。後は、残雪拾いで行けるかと思いきや、雪は少々軟らかく、南側および痩せ尾根は夏道(ハイマツ等の茂る尾根)の状況。残雪を拾いつつ、尾根伝いに進み、トヨニ岳山頂。ハイマツの山頂。朝日、南日高の山々の眺め良い。尾根を淡々と進み、北峰。窪地で幕営に良い。そこから先行の3人の足跡を辿りながら、尾根をアップダウンし、急坂の残雪を滑らないよう緊張しながらゆっくり下り、再び上り返して後は最鞍部まで下る。一息入れ、標高差 300m の夏道の尾根をゆっくり辿る。先行の3人が見えてピリカヌプリ山頂で追いつく。山頂は、二等三角点で風が強いが、神威、ソエマツ等眺め良い。山情報を教えてもらい、3人は縦走予定が、雪少なく歩きが大変で、ここで引き返すとのこと(昨日北峰テント泊)。とりあえずソエマツまでと出発。残雪少なく、ほとんど夏道歩きで、残雪等利用しショートカットで進み、風が強い中、長い登りを経て念願のソエマツ岳山頂。神威岳が間近で中部日高の山々等 360度の展望楽しむ。一息入れ、急ぎ足で来た尾根に戻る。帰りは、急な残雪斜面を避け夏道歩き。体力の消耗が激しい。ピリカ山頂は風強く、泊れず、先に進みやっと日没前に泊れるところ見つけてツェルト泊(藁にまみれたが、風除けでき就寝)。翌日は月明りのもと準備し、出発(昨日の強風下半袖歩き等で体の抵抗力等ダウン)。淡々と夏道尾根主体に残雪拾いして進む。北峰過ぎてピリカまでの7人位のパーティに挨拶。さらに昨日の3人パーティーのテント場で会い挨拶。トヨニ岳、主稜線の登り合流点を経てさらに南下。日差し強く、柔雪で残雪と夏道利用しゆっくりながら進む(クマの雪上の足跡見つけ一瞬緊張)。途中のテントを横目で見て、さらに炎天下の残雪、尾根夏道を進む。手前鞍部より残雪、長い夏道を経て野塚岳山頂。2等三角点、標識あり。山々等の展望楽しむ。一息入れ、さらに南の山へは時間的に無理で断念し、直登コース下山にトライ。残雪の急斜面だが、夏道が一部出て、ダケカンバもあり、雪滑りを楽しみつつ

一気に駆け下る。駐車場にあつと云う間の30分(標高差750m、直線距離約2.5km)で到達。例の3人パーティに再び会い挨拶(エンジン不調の様子)。

5/3「豊似岳」14:05~19:15(5:10) 追分峠牧場ゲートより往復。牧場道進み、登るルート考えていると地元の見回りの車の人に会い、登山口を教えてもらうが、ヒグマ出るので日没の山歩きは厳禁とのアドバイス。急ぎ足で登山口へ。ノートに入山を記載(14:55)。とりあえず行けるところまでと、林道終点から、テープ等便りに両手杖で急ぎ足で進む。途中笹原の展望地で年配の3名に挨拶。ダケカンバの森を経て、つづら折れの道を進むと、下から見えた残雪の川帯に出会う。ダケカンバを避けつつ、残雪を拾い、坂を登ると尾根稜線で廃屋あり。残雪等利用し急ぎ足で進み、観月分岐。道を探しつつ、残雪を拾い、一旦下り、上り返し夏道を経て豊似岳山頂。一等三角点。雲が湧き、視界は近くの山まで。途中襟裳岬の海等見え満足。日没前戻りのため、来たルートをすぐ下山。足跡等確認しつつ、急ぎ足で崩壊小屋まで進む。後は、残雪は、雪滑りを楽しみつつ、つづら折れの道はショートカットし、急ぎ足で下り、日没前の意外と早めに登山口着(18:35・往復所要時間3:40記録?)。後は、薄暮の中、林道歩きでゲート口駐車場に戻る。天候・体調不良等で遠征はここで終了。これで苦労した日高山脈は、イドン1山を残すのみ。

・5/6(水) Fukushima 100 Peaks 編(白布山)会津 1山 晴れ 11:55~15:35(3:40) 白布橋より往復。残雪なく、道ないヤブ山歩き。東電取水口まで林道歩き。沢を登り、沢の合流点より急坂尾根に取り付く。ヤブの薄いところを探しつつ、よじ登る。方向と高度を確認しつつ、尾根らしきを進む。稜線まで続く尾根に出ると笹藪が現れ、薄いところへと書き分け進む。蜜藪は南に迂回し、登ると残雪の小ピーク。先の小山が山頂。残雪切れ目より蜜笹藪(高さ2m以上)へ再度突入。一部横に刈り払いあり驚くが、再度すぐ蜜藪。少し薄くなった平らなところが白布山山頂。新緑のブナ林・笹の山頂で、木に登り、安達太良等の山々、湖を楽しむ。戻りは来たルートを確認しつつ、軽快に下る。

北陸遠征 5/9(土),10(日)

・5/9「伝説のハイカー編」ヤブ山石川南 2山「大辻山」山頂 11:55「ショウガ山」同 14:05 深瀬大橋口より往復。9:00~18:15(9:15) 小雨がパラツク曇り空で偵察予定で動き出す。通行止めの林道を進み白尾境隧道より、尾根伝いに山入り。暖かく雪のない植林地の小藪をひたすら上へ。雨粒等でズボン濡れるも構わず進み、支尾根。白ビニール目印あり、尾根を辿り植林地を登っていくと目印のテープ等に道らしき現れ、急坂を一気に進む。ヤブの夏道を淡々と登り、高度を稼ぎ、5m上にピンクテープの見える待望の残雪帯に会い、気持ちは一気に高まる。固めの残雪を拾いつつ軽快に進み、平坦なピークに出て三角点を確認したらに最高点へ行くと大辻山の標識が地上5mの杉の木にある山頂。曇りながら次のショウガ山も見え、すぐ次へ。残雪・尾根ヤブ等のアップダウンを繰り返して手前の急坂。滑らないよう、慎重に足元確認して登ると山頂の稜線。どれが山頂か不明で高いと思える先まで進むが、標高が低いため戻り、尾根の灌木・笹の中に三角点を確認し。遂にショウガ山山頂。白山の裾野、大辻山等見え満足。ガスが出てきたので、すぐ下山。急な残雪下り坂は、雪足跡を確認しつつ下る。ガスで視界が狭くなり、急いで登ってきたルートの山容が見えない。足跡辿るが、雪面の分岐は方向に戸惑い、靴跡も明確でない。何度も分岐で道探しに時間を食う。おぼろげな記憶と、東の間に見える山容等に助けられ、来たルートがゆっくりだが、確認でき、足跡を追う。樹上の小熊の鳴き声に2度出会うが、こちらは、道確認でそれどころではない。大声を上げ、淡々と下りのルートを進む。大辻山に到着し安堵。道のり長いため、すぐ下山。残雪尾根を蹴散らすように一気に下り、残雪開始の5m高さのピンクテープに辿り着く。あとは、小藪ながら、道らしきとテープ頼りに尾根をドンドン下る。白ビニールの支尾根起点に戻り、一安心。後は、意外と深かった、藪の植林地をゆっくり下り、手取湖面まで下り過ぎ、戻って隧道脇に出て、林舗道に戻る。残雪少なく行けると思っていなかった2山に行けたこと、2山共三角点を確認できたこと、小熊の鳴き声を2度確認できたことで疲れたが大満足の日。

5/10 石川南ヤブ山 3 山「高倉山」5:15~7:45(2:30)高倉林道の工事通行止めより、林道歩き、工事踊り場でヤブ尾根入り。登ると再び林道に出る。崖の法面の上り口を探すとピンクテープと道らしきあり、急坂を木等に掴まりつつ、ヤブ尾根に出て、ヤブの薄いところ探して進むと工事のピンクテープの平坦地。さらに進むとすぐ高倉山山頂。南は視界なく、北は山々の眺め楽しむ。三角点あり。東側に道を探すが見つからず、テープ辿り、進むと道が続く。来た方向と違うため、工事踊り場に戻り、林道に出て、後は、林道歩きで下る。途中登山口の標識あり、道もあるが、テープ等なく、どこに続くかは不明。淡々と林道を辿り戻る。「笠山」8:40~11:05(2:25)笠林道ゲート等で地元の人にどこまで入れるか教えてもらい、林道分岐に駐車し、残雪、崩壊岩等の林舗道進み、笠山隧道。トンネルを越え道を探すと、獣道らしきあり、急坂を上るとトンネル上の尾根に出る。テープもある。尾根を山頂方向へ進む。道らしきはあるが、雪解けの道ではあるが藪化しつつある道を書き分け進む。日差しが強い中進むと、平坦な残雪あるところに出るとすぐ笠山山頂。二等三角点。過去の国体縦走路の表示あり、ほか表示板多い。来たルートを着実にヤブを書き分けして、尾根起点に戻り、後は淡々と下る。「岳峰」11:35~13:45(2:10)登山口情報手元になく、東側水路脇より、テープに誘われ山入り。植林地へて、急坂を木等にしがみ付きながら、休みつつ登り、電波等の多い岳峰山頂。表示板、削られた石柱あり。山頂は樹林の中で視界今一つ。日差し強く、電波塔への山道にあやかり、登山道を下る。だが、方向は登った方向と反対側に下山。鎖ゲートまで下り、北へ道を辿るが、周り道ですぐ元に戻れるルートなし。背中をダニに食われ、剥がす。違う林道ゲートより再び山入り。大きな堰堤を階段道で登り、あとは沢伝いに稜線の低いところを目指す。獣道を経て、稜線を越え、急坂を木等に掴まりながら、慎重に下ってゆく。途中急な崖が何度かあったが、藪へ迂回して、素手を傷つけながら、慎重に下る。藪、植林地を経て東側の水路に出て安堵。水路を上流へ辿り、出発点に無事戻る。山頂まで急坂登り 0:45、下り:登山道・小藪稜線越えて 1:25。体はクタクタだが、充実した2日間の小ヤブ歩き。

5/16、17 新潟 5/18(土)佐渡1山「山毛櫛ヶ平山」9:25~14:35(5:10)曇りのち晴れ 昨秋撤退のリベンジ。歌見林道堰堤に駐車し林道歩き。刈り払い等され歩き易く、すぐ林道終点。昨年下って来たルートへ小堰堤を横切り、テープ・ロープ等ある道を登る。昨日からの雨で心配したが、出発時には雨は止む。ただ、草露が凄く、払いながら進むも、ズボン、半袖シャツも濡れ放題。止む無く雨具つけ、後は、昨年のルート等を思い出し、不明なところは周囲を確認しながら慎重に進む。長い草丈・シダ等払いながら、テープ等頼りに登り、林道に出て一安心。あとは、林道歩きで、昨年間違っただけの地点を過ぎ、進むと登山道入口の案内柱。そこから見事な巨大杉等眺めながらすぐ山毛櫛ヶ平山山頂。晴天で下界は雲の中。一等三角点と山々の新緑を楽しみ、食事後来たルートを辿り、難なく戻る。昨年の藪漕ぎが嘘のようで、草藪道ではあったが、天候にも恵まれた心地よい山行。下界は曇り模様の天気。

・5/17(日)上越2山晴れ「大毛無山」山頂 7:25「不動山」同 9:30 5:35~12:35(7:00)残雪利用の山歩き。林道大毛無線の旧スキー場リフト途中までで残雪通行不可にて駐車。山菜取りの車多い。林道の舗道を歩き、すぐ元スキー場の雪渓斜面に取りつく。雪解けした小灌木等を抜け、急坂登ると、残雪帯に出会う。後は、残雪を拾いつつ、スキーリフト・ロッジ等目安にゆっくり残雪歩き。カモシカが小走りに雪渓横切のを眺める。こちらに気づかずゆっくりした仕草していたが、気付くとあつという間に消え去った。残雪の緩斜面等のルートを選びつつ、あまり潜らない雪面を軽快に進み、山頂リフトからの尾根着。尾根を進み、1Pで山頂らしき見え、直登で進み大毛無山山頂。山頂は雪なく三角点が現れ、360度の展望。旧新井市街の街並み等楽しむ。ほぼ同じ高さの山・位置等から目指す山を確認し次へ。尾根伝いに残雪を辿るが、急坂等で尾根藪の裾野や小藪漕ぎをして進む。目指す山の鞍部へのルートを探しながら、雪面を一気に下る。遠くから見えた残雪の続かないところは、藪漕ぎと覚悟して最鞍部に到着。取りあえず残雪より藪尾根の状況確認と尾根に出るとれっきとした夏道あり、大変助かる。少し進むと雪渓の壁に出くわし、歯が立たない雪

面に長靴でステップを刻むが、浅くずり落ちる。何とか木等利用して登り、後は急坂の夏道をブナの新緑等に励まされながら登り、ピークへ。予想してたとおりの不動山山頂でバンザイ。山頂は広場で主三角点、標識等あり。妙高3山(妙高、火打、焼)等の山々、海岸線までの大展望を晴天のもと、大いに楽しむ。食事等で一息入れ、来たルートに戻る。不動山からの急な下りは、夏道を軽快に下り、途中残雪利用しスピードアップ。登り苦労した雪壁は慎重に下り、アツという間に最鞍部。後は来る時に後ろを振り返りつつ確認したルートを難なく辿る。藪は避け残雪を利用し迂回しつつも、軽快にアップダウンを楽しんで、大毛無山に戻り、一息。あとは、残雪の斜面を転ばないようにバランスを取りつつ、軽快に下る。1Pからは、旧スキー中腹の小屋目掛けて一直線にかけ下る。さらに斜面の雪滑りを楽しみ、スキー場を利用し大幅にショートカットしあつという間に駐車場まで戻る。下りに中腹小屋付近で、一人の登山者にあっただけで、残雪の妙高連山、ブナの新緑、青空を大いに楽しめた一時に大感謝。後は、下見して帰宅。

5/23(土) ふくしま百山紀行編(大早稲沢山)8:25~10:40(2:15) 晴れ 会津ヤブ山 林道終点の早稲沢口より整備された遊歩道を吾妻川の溪流に沿って進む。布滝を楽しみ、デコ原湿原方面に進む。目指す山を行きつ、戻りつつ確認し、2つ目の木製ベンチより藪入り。残雪跡で笹・灌木の薄いところを探し進むと、尾根に出会い、尾根伝いにヤブを掻き分け、上へ。少し行くと、平坦な山頂尾根。残雪を利用し進むとピークに三角点あり、大早稲沢山頂。テープ2つあり。ブナ灌木の中で、西大巔が樹幹より見える。晴天、虫多し。すぐ来たルートを通り下山。登山道に出て安堵し、新緑のブナ林・吾妻川の溪流、初夏の日差しを満喫して戻る。

・5/24(日) 新潟上越1山「南葉山」9:05~15:50(6:45) 前回下見した南葉高原キャンプ場より周回。人気の身近な山で駐車場の車多し。木落しコースを往復。キャンプ場より、なだらかな道を進み、急坂へ。5合目で幾人かのパーティを抜き、6合目水場で一息。見晴台で展望楽しみ、進むと残雪帯。10人位のパーティーに挨拶し残雪歩きを楽しむ。坂から平坦となる残雪をテープ等便りに上へ。淡々と残雪を歩き、すぐ南葉山山頂。山頂は、残雪の脇で雪なく、二等三角点、表示確認し一息。時間が早い(10:05)ため、山系周りへと奥へ進む。残雪を下り、ブナ林の夏道の尾根をアップダウンしながら進み、中間Pで一息。一気に下って上ると三叉路分岐。さらに進むと(籠町南葉山山頂。残雪に埋もれた標柱で確認。市街地平野の眺め良い。分岐に戻り(11:35)、尾根続きに見える山へ。尾根道を進むと別登山口への下山道と尾根の分岐で尾根の先に道なし。行ける所までと少し下り残雪を拾い尾根伝いに進む。若干のヤブを経て、目指す山の手前最鞍部。残雪が続いているので、拾いつつ上へ、上へと突き進む。平坦地となり、残雪・ブナ・灌木のある(重倉山)山頂。晴天、海岸線の展望楽しみ、下山。途中より妙高3山、南葉山の展望楽しむ。尾根のヤブを避け、裾の残雪を辿り進むと、下山分岐過ぎて尾根道に出会う。後は三叉路へ戻り、新緑・木漏れ日を楽しみつつ、残雪を下り、上りに活用しあつと云う間に南葉山山頂。調子に乗り残雪歩きを楽しみ過ぎて、道迷い。間違えた地点に戻り、道を確認して下る。残雪の足跡薄く、夏道探しに迷いつつ、来たルートに戻る。水場で雪解けの冷たい水を楽しみ、淡々とキャンプ場に戻る。人の踏み入れそうにないヤブ山残雪歩き、新緑のブナ林、青空、を大いに楽しむ。

長野遠征シリーズ 5/29(金) 休みで5/29~5/31

・5/29 長野北2山「虫倉山」10:40~14:25(3:45) 大洞池口より尾根往復。鳥居を経て、登山道進むがすぐ、林舗道。神社への道で整備され、歩き易く、すぐ(稲丘飯縄山)山頂。参拝し先へ尾根伝いに進む。林道横切り、進むと(大洞山)山頂。三角点あるカラ松林の中の山頂。尾根進み、最高点を経て、本道に合流し、すぐ虫倉山山頂。ここは近くに白馬があり、地震の影響で山頂の北側の斜面が崩壊し2登山コースが通行止の表示。くる途中、道路工事多数あり、影響の大きさを実感。晴天で夏の日差し。表示板で北アル

ブス(鹿島槍、五竜、白馬等)の山々を確認。一息入れ、来たルートを淡々と戻る。地場産センターで食事。口名良部島の噴火の映像を見てショックを受ける。

・「東山」15:35～21:35(6:00)奥裾花自然園より往復。スタート遅く、偵察で山入り。林舗道、遊歩道を経て登山口。分岐尾根までと道を確認しながら進む。雪壁を慎重に登り分岐。日は長いので、もう少しと気になる笹等を掻き分け、急坂進むと(中西山)山頂。三角点あり、天気良く、目指す山も見えるため、先へ。残雪等の尾根を急ぎ足で進み、西の急斜面を慎重に登ると標石のある(奥東山)。さらに一旦下り上り返して尾根を進むと開けた平坦な山頂の東山。偵察予定が来てしまった。二等三角点、北ア等展望良い。夕日、月、青空、白い雲のコントラストを楽しみ、同じ尾根ルートに戻る。薄暮で中西より、ライト準備。月明かりを支えに、残雪下りを楽しむ。尾根分岐より雪壁を慎重に下り、道を確認しつつ、ゆっくり下る。林道に出て一安心し、後はムーンライトウォークを楽しみ、駐車場まで戻る。

・5/30(土)長野北1山「堂津岳」4:00～13:00(9:00)昨日と同じ奥裾花自然園より、同じルートを辿り、雪壁を経て尾根分岐。昨日と反対の北側尾根を進む。夏道出来て歩き易いかなと期待。残雪後で、所々、道不明。あせらず平坦な尾根を進み、三角点のある(奥西山)を経て、残雪等拾いながら平坦な尾根を進む。不意に残雪の先が背丈以上の笹群が現れ、道不明。やむなく残雪拾い奥まで進み、方角を確認し、藪の薄いところを笹藪に突入。少し進むと明るい尾根に出る。尾根を確認し、道らしきもあり、安堵し尾根を進む。ブナ・笹からj灌木帯の尾根に出ると展望良くなり、やっと山歩き気分。夏の日差し強く、バテる。残雪とオレンジジュースで即席の至高のシャーベットを味わいながら尾根を辿ると念願の堂津岳山頂。二等三角点、北ア等の展望よく、食事しながらの長休憩。本当は、先に見える乙妻山まで行く予定だったが、道なく、残雪も少なく、夏の日差しで体力消耗激しく断念。来る途中見えた険しい西岳と奥深い乙妻山は後日挑戦。山の恵みを頂きながら、痩せ尾根を慎重に下り、道不明のところは、笹が覆い被さり、夏道はしたの地面しかわからず、探すのは困難なことを確認。その藪を出て、残雪帯に出ると、大勢(14名)のパーティーと出会い挨拶。夏道がどこかとの問いに、道を案内。メンバーは藪漕ぎにやや疲れた様子。後は、尾根の道を確認しつつ、分岐より雪壁を経て一気に下る。自然園はブナ、トチ、ナラ等の巨木の森で森林浴を楽しみつつ戻る。早いのが今日はここまで。7年に一度の善光寺の御開帳に参拝。

・5/31(日)長野北1山「高社山」6:20～8:10(1:50)曇り時折小雨 よませスキー場よりスキー場を経て登山道進むとすぐ高社山山頂。二等三角点、祠、方位版、展望台あり。雲の中で視界なく、9時よりトレランの大会案内あり、すぐ下山。付近の天気今一つで今回はここまで

6/7(日)新潟 上越 2山 晴れ「権現岳」山頂 11:20「鉾ヶ岳」同 12:45 10:00～15:10(5:10)柵口登山口より往復。出足遅れ遅いスタート。日差しは、夏のよう。最初なだらかで、雪渓現れる所より、尾根、急坂、岩岩が続く。崖に近い斜面にロープもあるも、足掛り、僅かで、足場を確保し慎重に登る。胎内洞は、ロープ頼りに巨大な岩の麓を足場確認し、薄暗い中ゆっくり進む。ハサミ岩を経て、白山権現。急坂を大勢の人が降りてくる。今日が、近くの駒ヶ岳と共に山開きとのこと。急坂に登り進むと権現岳山頂。方位盤あり、妙高3山、海岸線等の眺めよい。2人の登山者に挨拶。先へと尾根を進む。一部やせ尾根あるも慎重に進み、(トッケ峰)。尾根伝いに下り、雪渓歩きを楽しむ。鞍部で2人パーティーに挨拶し、道を確認。夏道を淡々と進み、雪渓を慎重に登ると間もなく、鉾ヶ岳山頂。一等三角点、避難小屋あり。妙高3山は雲隠れ。昼食後、雪渓歩きを楽しみ、来たルートを戻る。急坂の下りは、登りより楽だが、胎内洞はロープ頼りで進み、軽快に下山。戻ると縦走したパーティーと会い挨拶。山慣れしているパーティのよう。

6/13,14 長野北3山 晴れ

6/13(土)「西岳」7:25～18:35(11:10)戸隠 鏡池口より縦走周回。大駐車場より入口を探す。登山届けの

ところまでは、順調。その後林道と林業道をさ迷い、1:30のロス。地図を確認して当初の林道出合いのすぐ向かいに道あり。登山道の表示が裏返りが、わからず。でも安堵し下っていく。沢に出たところの分岐でまた道迷い。先行の若者2人に道を教えてもらいようやく本格的な歩き。樹林帯を進み、草原に出て一息。後は尾根伝いに進む。いきなり大きな岩岩に出会い、余裕なくさびた鎖を頼りに不安定な足場を気にせず登る。尾根伝いに進むと岩岩で鎖等あり。極力鎖を頼らず、進む。下山者に挨拶。虫に取り巻かれている。稜線は虫多いとのこと。降りてこれる尾根と安心したの束の間で、すぐ絶壁の梯子の下り(10m)。梯子に取り付くにも手掛かりなく地道に慎重に取り付く。梯子降りも最初は、足探りで慎重に降りる。次には、両側絶壁のやせ尾根の70度の斜面。鎖あり、鎖、木の根等頼りに上へ上へと進む。下や脇も見れずに突き進む。あとは、淡々と尾根を登り、1P(弁慶岳)。眺め楽しむが虫多し。西側は藪でルートなし。いよいよ稜線に入り、歩き易い尾根を進むと念願の西岳山頂。先客(東京からの7人パーティ)あり。岩岩、戸隠連峰の展望を楽しみ、食事し山話。本格装備の方々と、反対の奥社からの周り。縦走路進むと、同じく絶壁の急斜面下りが続く。鎖を頼りに転ばないように、つまづかないように、手、足場に集中して下る。鞍部より登り返すと(本院岳)。西岳等の眺め楽しむ。同じく急斜面やトラバース道を慎重に下り、長い上りを登り切ると20数年ぶりの八方睨。戸隠高原、連峰の眺め良い。蟻の戸渡りがやせ尾根に見える。次の山へと縦走路を進み、すぐ戸隠山山頂。高妻が大きく見える。さらに尾根をアップダウンし進むと(九頭龍山)。あとは、下っていくと一不動。避難小屋あり、乙妻へのベースと考えたが、虫が多く、扉ががら空きで、泊まりを断念し、沢伝いの登山道を、鎖等の岩場を慎重に歩いて、戸隠牧場に下山。キャンプ場経て、主要道に出るとタイミングよくすぐ出発するバスあり、乗車。鏡池入口で下車し峠を越え、鏡池に下る。駐車場で下山してきた7人パーティーに偶然再会し挨拶。疲れた様子。

・6/14(日)「伝説のハイカー編」白馬3山「杓子岳」山頂9:45「白馬鑓ヶ岳」同10:45 3:55~15:05(11:10)猿倉口より周回。朝明るくなりスタート。林道を淡々と進み、登山道へ。雪渓現れ、間もなく白馬尻小屋(開業準備中で人なし)。大雪渓を落石等注意しながら、淡々と進む。残雪は固めで歩き易い。急斜面で下りて来る人に初めて会い、挨拶。20数年ぶりの白馬で登りのルートを確認。急斜面を雪足跡頼りに一気に上り進む。赤の目印粉も出てきて、村営小屋の見える雪解け水の現れたところで一休み。残雪を踏み締めて、村営小屋を経て縦走分岐。まず正面に見える旭へ。残雪を頼りに鞍部まで下り、尾根の残雪を進み、登山道のガレバをゆっくり登ると稜線。すぐ(旭岳(100高山の1つ))山頂。岩岩に登り、立山・剣等の展望楽しむ。すぐ来たルートを分岐まで戻り、唐松方面へ。小高い山(丸山)で食事休憩し展望楽しむ。縦走路をウルップソウ等の高山植物を楽しみながら、鞍部まで下り、ガレバの道を登り返して杓子岳山頂。東側は絶壁。尾根伝い下り、急坂等上り返して白馬鑓ヶ岳山頂。三角点あり、北アの眺め良い。来た尾根を下り、トラバース道より鞍部へ。上り返す途中、白毛3割に衣替えの雷鳥が砂被りしている所に出会い、挨拶。尾根の十字路分岐経て、ゆったりとした道を進み、20数年ぶりの白馬岳山頂。今日登った山々の眺めを楽しむ。立山等は雲隠れ。小蓮華までもと考えていたが、時間的に難しいため、断念し下山。来たルートを急ぎ足で下る。若者の雪滑りに刺激され、ピン付長靴とスキースtockの特徴を生かして、雪滑りを楽しむ。急斜面もトライしたが、下が岩岩のため、途中で雪道に戻る。だがすぐ雪滑りを再開し、一気に大雪渓を下る。緩斜面は駆け足で汗をかきつつ、白馬尻小屋まで下る。雪渓雪解け水場より、登り2時間に対し下りは何と30分(標高差950mを)で駆け下りた。この時期しかできない山遊びの醍醐味を味わう。ただ、汗をかいたせいで後の道、林道歩きは、虫にたかられまくり。先行の若者2人も同様。それでも以外と早く戻れた。白馬3山、百高山一つを歩いて大満足。充実し過ぎた天候の良い2日間。初夏の山歩きを満喫。虫の集まる習性、こまめな休憩と食事が高山病・高山歩きに大切なことを学ぶ。

6/20(土)新瀉上越1山「駒ヶ岳」曇りのち雨 10:50~16:25(5:35)海谷三峽パークより往復。寒気の影響

で大雨予想あり、急ぎの歩き。道をトラバース気味に進み、沢を幾つか渡渉し雪渓を経て尾根に取り付く。岩岩の山で、すぐロープの登り。急斜面の大岩は、長い梯子を経て、さらに岩岩が続く。揺れる木梯子を経て急坂を黙々と進むと踊り場の2本の大杉に出会い、一息。ブナの泉を経て進むとまもなく駒ヶ岳山頂。三角点あり、先行4人、2人のパーティあり、挨拶。祠ある平坦な山頂で、雲で視界なし。先の山情報教えてもらい、すぐ先へと進む。間もなく雨降りだし、雨具着け、急坂等を下る。雨が本降りとなり、ほぼ垂直の岩場で撤退を口にはしたが、体は前へトライと進む。細い岩道をロープ、鎖等を少し頼りに垂直の岩場を慎重にゆっくり下る。後は、アップダウンを繰り返して尾根伝いに進む。縦走路を進み、折れて急な下りとなり、分岐に戻り、ルートより外れた岩の急斜面を登り(鬼ヶ面山)山頂。雨で視界なし。天候悪化もあり、すぐ来たルートを引き返す。岩の登りは淡々と、下りは慎重に歩く。垂直の岩は、登りは手、足掛かりを確認して以外に素早く通過。駒ヶ岳でも雨やまず、雷も聞こえ、一目散に下る。2つの梯子は慎重に取り付き下る。沢の渡渉は来た時と違い増水の濁流だが、支障なく通過し戻る。車で少し走ると豪雨で、この時期長丁場は危険かも。大気の状態不安定で地元に戻る。

・6/21(日)ふくしま百山紀行編 2山 曇りのち晴れ 福島中部(三森山)7:05~10:35(3:30)御霊櫃峠より西へ草木の覆う道を、びっしょり濡れながら進むとピークの(三森山)山頂。雨量計等あり、雲が多いながら日差し出て、展望良い平坦な山頂。先へと尾根伝いにトライするも目印なく、入り口も不明瞭なため、峠へ引き返す。すぐ尾根伝いの東の山へと進む。後で2度目の額取山と判明。天候不明な中、意外と登山者あり。天候持ったため、吾妻連峰へとスカイラインを進む。(高山)12:05~13:15(1:10)バス停鳥子平に駐車し沢を過ぎて湿原でワタスゲ・チングルマを楽しみ、道を進む。雨等でぬかるみの道で覆う笹等を払いながら、天候を心配して急ぎ足で一気に登る。2つの反射板に出てピークは、藪の中。笹藪等掻き分け進むと駆り払いされた空間に三角点あり。高山山頂。周囲は笹・灌木の中で視界は、今一つ。すぐ反射板の広場に出て、東吾妻、浄土平等の展望楽しむ。雲が湧き出しており、すぐ下山。湿原と沢を楽しみ戻る。

新日本山岳誌以外編

・6/27(金)夏休み 岩手西奥羽山系 和賀縦走完結編に合流(小杉山)7:00~16:35(9:35)曇り 一昨年ルート不明で途中断念した峰越峠から北へ縦走する3人組と合流目指し(休みの関係で同行できず)、和賀岳高下登山口を出発。ブナの巨木の森を登り、高下分岐より和賀川に下る。水量は通常の状態に渡渉ポイント2つの上部よりピンつき長靴で靴脱がず渡る。急坂を淡々と登り、コケ平。後は稜線歩き。キスゲ等高山植物咲き始め。久し振りの和賀岳山頂(一等三角点)。先客あり山話。十数年振りの岩手からの渡渉ルート。300名山等の関係で東北の秘境の和賀山塊もかなり登山道が整備されている様子。山頂のキスゲはこれからの状態。風強い中、縦走ルートを南下。途中チングルマ見頃。さらに進み小杉分岐。すぐ側の灌木・笹の藪の中に(小杉山)の山標識と三角点を確認。曇りだか、近くの山々の眺め良い。さらに進み、薬師手前のキスゲ・トラノオの花畑で縦走3人組みと会い、無事を確認。3人は縦走路を。私は、十数年振りの薬師岳山頂を踏み、ルートに戻る。小杉分岐で3人に追いつき、昼食後4人で戻る。途中来た時に挨拶した女性がスポーツ店の観光ポスターの山岳ガイド(八幡平拠点)の女性に似ており、事前に話していたので、メンバーの外さんが話しかけ、本人と確認。いろいろな人の繋がり、山話に盛り上がり、記念撮影してお互いのルートへ。主峰の和賀岳山頂を踏み、同岳初めてのKさんと一緒に記念撮影し沢へ下る。来たルートの渡渉と深みの渡渉に分けて渡り対岸で休憩。素足で渡ったKさんは川の水は凍るように冷たかったとのこと。高下分岐まで、ブナ、ヒノキの巨木楽しみ登り、後はブナ林を下り登山口。縦走組は、風鞍を5時出発で約12時間の2日目歩き。縦走完結にお互い満足と疲労の顔。今回縦走参加したKさんはバックカントリースノボ、ヤブ山の主のような秋田の方で雪質の確認、ヤブ歩き、高度計の使い方、山名、木の知識等教わる。途中参加ながら、人に会え、山歩き情報得られ大満足の日。

・6/27(土)天候不安定で、地元の山歩き。ふくしま百山紀行編 会津 2 山(神籠ヶ岳)山頂 10:20、烏帽子岳同 15:35 7:40~19:30(11:50) 桧和田峠への林道の広い所に駐車し、道のない積雪期登山の山にトライ。林道を歩き、途中橋を渡り、民有林道鎖ゲートを通り、林道を終点まで進む。何も標識なし。戻り際、枯れた木に赤テープの残骸発見。取りあえず行けるところまでと急坂の尾根歩き。途中ガレ場の急斜面で枝で目印。さらに登ると主稜線と思われる尾根に出会う。桧の巨木群。目印の赤布を付け、一息入れ、少し歩くとぼったりクマと鉢合わせ。10m先で、こちらは、一声大声上げただけで声続かず、にらみ合う。クマが、やっかいなよそ者と感じたか、沢へゆっくり姿を消す。その後慌てて笛を出し、しばらく尾根を歩きながら吹き続ける。クマは、黒色で私と同じ位の背格好。、食料豊かか、福よかな体躯。尾根を進み、広いブナ林と笹藪の斜面が現れ、藪の薄い、獣道らしきを進む。途中赤布 1 つつける。小藪掻き分け進み 1P。小屋跡あるもほかなし。さらに奥へと尾根を進む。笹藪がやや深くなるが、薄いところを選び進むとピーク。奥まで確認しピークに戻る。笹藪の中を探し回ると三角点の標石確認。遂に神籠ヶ岳山頂。曇りの藪の中で視界なし。来たルートの間違いながら目印を回収して、支尾根を一気に下り、急坂・ガレバの目印枝を確認し安心して尾根を一気に下る。沢の音が聞こえ、高度確認すると下り過ぎ。慌てて大汗かき尾根を登り返し、林道終点の高度に戻るが、林道らしきなし。尾根間違えを確認。トラバースして同高度の尾根へ進む。尾根に着き、林道確認し安堵。林道を戻り、次への確認と峠を探し。沢を草藪経て沢詰めするが、それらしきなく、作業道らしきを戻る(1Hロス)。林道鎖ゲートに戻り、橋を渡り、林舗道を登る。林道は回り込むため、作業道を進み、直進。2 つ目を直進すると行き止まりで道らしきもなし。やむなく引き返し、作業道終点まで進み、尾根に入る。高度と時間を確認(14:35)。尾根に踏み跡あり、急坂を一気に登り、稜線。目印赤布 2 つ。さらに尾根を進み、笹の多いピークに 3 つ目の赤布。先の高い山あり、急坂登り進むが、広い笹原で何もなくてさらに奥にピークらしき見え、目印つけず、進む。ピーク前の坂で笹藪ひどくなり、薄いところを選び進み、ピーク。三角点発見。烏帽子岳山頂(15:35)。ブナ林と笹の山頂。曇りで視界なし。短時間で来たので油断あり。帰りは早々に道迷い。何とかルートに戻り(?)、下る。踏み跡・獣道進んでいくと高度の下がり過ぎに気づき戻る。ピークまで戻るが、方向確認できず、幾度かトライし、途中 2 度目の大雨で、雨具付け遅れ、びしょ濡れ。方向不明で彷徨いつつ、体力消耗。時間が 17 時過ぎ、間違えた道を取りあえず沢まで下る。沢で水の流れの方向確認。反対側の沢にいることを確認。尾根に取り付き、踏み跡、獣道らしきをピークまで進む。体力消耗で体の動きが鈍い。久しぶりに腰を下ろし、食事。体力回復ないが、ゆっくり尾根の小藪掻き分け、息を整えながら進む。ピークに出て、反対側に 3 つ目の目印の赤布発見し安堵(18:20)。2 時間の道迷い。夕闇と霧で薄暗くなる中、慎重に来たルートを思い出しつつ、淡々と進み、1,2 の赤布回収し、尾根を滑りつつも、一気に下る。入山高度で無事林道に戻って、しばらく林道をゆっくり歩いて無事駐車地に戻る。苦難の 12 時間。天候不良で今回はここまで。

7/5(日)長野北 1 山「乙妻山」曇り 10:25~17:20(6:55) 天候不明で遅いスタート。戸隠牧場入口より周回。6 月中旬に下った一不動のルートを沢を楽しみながら登る。前回の雪渓は消え、清水は一層おいしかった。一不動避難小屋の尾根に出て、淡々と尾根道を進むと(五地藏)山頂。標識が 2 箇所にある。雲で視界なし。さらに進み、弥勒尾根分岐を経てアップダウンを繰り返す。100 名山の高妻からの下山者が多い。高妻直下の急坂経て、約 20 年振りの高妻山。雲で視界なし。さらに奥へ。やせ尾根の絶壁を眺めながら、慎重に尾根を進む。雪渓を経た進むと念願の乙妻山山頂。平坦な山頂で、祠あり、雲で視界なく、静か。先のルートはなく藪。堂津岳より大きく聳えて見えた岩峰の乙妻山に登れ、2 回に分けた戸隠連峰の縦走に大満足。戻りは、来た尾根ルートを高妻経て弥勒尾根分岐まで行き、弥勒新道の尾根を一気に下る。ブナ林良いが、戸隠連峰のルートとしては、100 名山のお陰で面白みに欠けるが、着実なルートであることを確認。梅雨時で雨に降られず、助かる。いよいよ次回から天候を見ながらの北アルプス歩き開始。

7/10(金)夏休 百周年行事で依頼のあった槍ヶ岳北鎌尾根ルートにチャレジ。ビギナーズブラックで無事踏破。2 度行くことは、困難と思われ、プレ百周年とさせていただきます。概要を簡略に記載します。もちろん 4000 名山も少し歩きました。

・7/10(金)6:30~18:20(11:50)晴れ 中房温泉登山口より合戦尾根を経て燕山荘。槍ヶ岳等眺め良い。表銀座縦走路を進み、大天井・槍分岐より、大天井の岩肌をトラバース。ヨチヨチ歩きの雷鳥の雛 2 羽にびっくり。夏毛になっている。大天井ヒュッテで明日空いているか確認し、貧乏沢の状態を教えてもらう。残雪あり、アイゼン、ピッケルは必携と安易な入山を禁じている。疲労防止に利用している 2 本の木の杖と軽アイゼンあるからと槍方向に少し下ってゆくと貧乏沢入り口の案内板あり、杖1本はデポし、道となっている急坂下り、ガレバ経て沢に出る。少し下ると雪渓あり、雪渓は少し柔らかく、杖を使いバランス取りゆっくり下る。後は左の巻き道等利用し淡々と下る。いい加減飽きてきた頃、天上沢に出会う(標高差 800m 下った)。夏の日差し強く、途中から汗のためか、虫が付きまとう。天上沢の左側を進む。広い沢だが、日差し強く体力を消耗する。まだかまだかと探した北鎌沢は小振りな沢だが、雪解け水等で流量あり。沢上りに入る。しばらく進み、左・右の分岐。左が本流で、明日分含め水を確保。極力少なくした荷物も約 2? の水確保で重くなる。進む方向は、水の流れていない右側。水のない沢歩きで、大岩等は、手と足、体のバランスを大事に、着実に登る。本流を進み、草つきの急斜面の中洲となる。右は、谷が深く、左は雪渓が続くため、真ん中の枯れた沢筋を進むが、ガレでずり落ち、中々進まず、ゆっくり上へ。雪渓手前に道らしきあり、雪渓なければ左が正解か。さて眼前に急斜面の巨大な雪渓。軽アイゼンを準備しつつ、残雪のない右尾根を辿り何とか、雪渓上部に出て北鎌のコル。もうタイムアップしたいが、相変わらず、虫の大群。眠れる環境になく、急な尾根道を淡々と進む。テン場幾つもあるが、虫に好かれ、休めず、天狗の腰掛の展望地まで行き着く。風が出て、寒くなり、しばらくしたら虫たちも退散。荷物持たず、軽量化し寝袋ないツェルト泊。大きな山塊の独標と夕焼け見て就寝。風の通り道か、一晩中吹き荒れ、寒さと風音でブルブル震えながら、眠れない 1 晩を過ごした。時間の制約の中で、前へ進んできたが、風と寒さは大誤算。

・7/11(土)晴れ 4:15~15:40(11:25)一晩横になり、ブルブル震えて、体を動かしたせいか、表面上特に疲れなし。いよいよ気を引き締め、独標へ。見覚えのある小窓風のところから先は、トラバース道不明につき引き返し、岩に辺り、リュックより 40 センチはみ出た杖は拾って使い愛着の湧いてきたがデポし、岩岩の急斜面を手、足掛りを確認しつつ、上へ上へと一気に進むと(独標)の頂。今日も晴天で、朝日、これから進むルートと槍、北アルプス眺め楽しむ。後は、概ね、稜線伝いに慎重な岩登りで進む。心配した P15 のいつの間にか、頂につき、稜線先への下りもダイナミックではあったが、軽快に下る。遥か下にテント 1 つあり。さらに尾根を進み北鎌平。眼前に超巨大な岩峰が聳える。果たしてどう進むのか、全く情報なし。とりあえず、歩いていると思われる尾根伝いに進むと、道らしきがあり、それを辿る。8 合目の岩に人影発見。あそこまで行けると確信し、岩岩に取り付く。いつもの岩岩歩きと同じで上へ上へのルート探りながら登る。直下は大岩あり、チムニーといわれる所は不明で、登りやすいところを選び難く、頂上直下。人の声が聞こえて悠々と槍ヶ岳山頂。先行のヘルメットの 5 人パーティーに挨拶。一般ルートの人で、北鎌から来たと話して、スゴイと云われ、少し気分が楽になる(貧乏沢入り口より初日 5:20, 2 日目 3:50 計 9:10 の歩き、晴天で特に大きな道迷い、時間ロスもなく、虫に追われたことと天狗の腰掛の寒さに震えたツェルト泊以外は至って順調に歩けた:これもビギナーズブラックと山の好天のお陰で感謝)。後は、東鎌ルートを歩き、水俣乗越での北鎌へのアプローチ確認。残雪多く、現状では無理。やはり、残雪のなくなる 9 月頃がベターか。急坂登り西岳ヒュッテ。奥のテント場より下り鞍部より上り返すと人の声。こんなところで。道迷いの人。急斜面におり、早く元のルートに戻ることと来たルート教える。這松等掻き分け稜線。一番奥まで進み「赤沢山」三角点あり、槍等眺め良い。ヒュッテに戻り、日差しの強さ等でバテバテで、休み休み尾根を辿り、「西岳」山頂。展望楽

しむ。登山口に戻る力なく、片側がガレタ急斜面の稜線を進み、登山道に合流。暑さ等でバテバテ。稜線を進み、お花畑と大岩があり、大岩目指すが上へ進めず、回り込み、這い松経て稜線。小高いピーク見え、進むとピークに三角点。「赤岩岳」山頂。展望楽しみ戻る。後は、日差し強い中、ゆっくり休み休み歩き、大天井ヒュッテ。宿泊手続き後、説明聞いている間に血の気が引け、たまたま床に腰を下ろす。冷気が蘇らせてくれたが、体は正直で、夕食でさらに蘇える。宿は暖かく、昨日と雲泥の差。同室の人の大騒いでグッスリは眠れず。

・7/12(日)晴れ 4:30~13:30(9:00)大天井ヒュッテより少し登ると槍ヶ岳のモルゲンロードを楽しみ、大天荘。表銀座銃走路進み、(中天井岳)さらに進み(東天井岳:日本百高山)朝食後出発時に小さなオコジョ見かける。縦走路戻り、2度目の大天井岳。向かいの硫黄岳のルートを探る。表銀座縦走路を戻り、人の賑やかな燕山荘経て斜面の見頃のコマクサを眺めつつ、燕岳山頂。さらに奥へ進むと斜面一面のコマクサに圧倒されつつ、進むと(北燕岳)山頂。展望楽しみ、燕山荘経て合戦尾根を下る。好天で多くの登山者に会う。合戦小屋でスイカ買おうとサイフ出したが。一切れ 800 円では無理であきらめる。尾根を一気に下り、中房温泉で汗を流した。

・人に勧められ、通常一生歩くこともないルート(北鎌尾根ルート)の槍ヶ岳)にトライし、今考えると引き返しが事実上困難な沢・岩のルートが無事生きて戻れて大満足。歩くこと、体力の限界にも気づかされた梅雨の晴れ間の3日間で、生涯の貴重な体験となり、周りの方々に感謝。

7/19(日)20(月)長野・新潟 4 山

・7/19 長野 志賀高原 3 山 曇りのち晴れ一時大雨 「赤石山」山頂 6:45「志賀山」同 9:20 5:00~11:30(6:30)大沼池入り口より周回。ゲートより林道歩き。昨日以前の雨のせいか蚊が集り、捲られながら進み、大沼池。エメラルドの池でレストハウスより赤石へ。整備されているが、ぬかるみの急坂を一気に登り稜線へ出る。後は尾根伝いに歩く。岩岩が出てガレバ等経て赤石山山頂。岩岩で絶壁を見下ろす山頂。雲で視界なし。3 方向からルートあり。尾根を戻り、分岐よりさらに尾根伝いに辿る。アップダウン繰返し、小雨降る。四十八池の分岐より急坂登り進むと平坦な(鉢山)山頂。小雨状態。すぐ分岐へ戻り、四十八池のワタスゲ等を楽しみ、急坂を登り、絶壁の上の(裏志賀山)。祠あり。一旦下り登り返す。ハイカーが多い。急坂経て志賀山山頂。三角点あり、晴れて陽光、山々の眺め心地良い。食事後四十八池に戻り、雨に濡れた散策路を大沼池へ。池に立つ赤鳥居を拝み、レストハウス経て大沼池入り口。ハイカマーに加え、中学の駅伝合宿に林道で往復で会い、ゲートでも会い戻る。「御飯岳」12:45~17:00(4:15)毛無峠より、両側に山が聳え、眺めもよく模型飛行機の基地。木のない丘を越え、下り、強い日差しの中、緩やかな尾根を進む。笹原・シラビソ等を経て進むと平坦な丘の御飯岳山頂。トンボ、風が心地よい。ガスがかかる中、毛無峠に戻り、疲れているが、向かいの山へ。つづら折れの整備された道を進み、すぐ(破風岳)山頂。表示版あり、片側は絶壁の岩山。霧で視界なし。さらに奥へと進むと途中より雨が本振り。雨具付けあと少しと進む。大雨の中、急坂、トラバース道へて稜線。さらに進むと(土鍋山)の三角点。雨降りのため、木陰に戻り一息、雨の中を戻り、稜線に出た反対側にあった表示板を確認し、大雨に濡れながら戻る。破風分岐手前で小降りなり、虹と雄大な景観が見えて、楽しみながら戻る。ずぶ濡れですぐ着替え。

・7/20 新潟糸魚川「明星山」5:30~10:30(5:00)入り口不明につき大絶壁の展望駐車場より、ヒスイ峡に下り散策。上流に橋あり、そちらへ進む。橋に登山口の表示あり。橋を渡り、登山口。途中でタオルないことに気づき探すか不明。タオルなしの登山トライ。植林地経て大岩壁の脇のガレバを進む。時々上を眺め、落石ないことを祈る。ガレバ、灌木等を進み、沢に出て、再び尾根へ。ブナ林経て、急坂のヒノキ・岩を手、足元確認し、ロープ、鎖頼らず、急坂を淡々と進む。稜線に出るが、岩岩で歩き難い上、頂は逃げ水のように先へ。何とか、平坦な岩岩の明星山頂。三角点あり、晴天のもと、北アの北端の山々、妙高 3 山、海岸線

等眺め楽しむ。食事後、来たルートに戻る。登りは、ズボンびしょ濡れ。帰りは日差し強い。舗道で落としたタオルを無事回収し、ヒスイ峡の観光客の脇を抜けて戻る。車移動し奥の林道ゲートに駐車。(中俣山)10:30~15:30(5:00)勘違いの山歩き編。ゲートより炎天下の林道を水に濡らしたタオルを頭につけ、ゆるり出発。先行の写真家は、花撮影の様子。久しぶりにシオカラトンボ見て、青色の蝶の舞を楽しみつつ、暑い林道歩き。木陰・湧き水、沢水に癒され進む。見事なヨシオの滝の一気に流れ落ちを楽しみ、急ぎ足で進むと中俣新道入り口。急坂登ると避難小屋。急坂、ブナ林をこの2日間で疲れ、暑さにバテタ体を騙しつつ、ゆっくり尾根を進む。縦走の3人パーティーに挨拶後間もなく(中俣山)山頂。樹林の中の山頂で表示あり。視界は、木々と空だけ。下りはいくらか元気立て一気に下る。登山口で3人パーティーに追いつく。だが、すぐ小型バイクの3人に抜かれる。釣り帰りの若い人が後ろから来て驚き声を上げる。コケ伝いの冷たい湧き水で息を吹き返し、淡々と林道を歩いて戻る。釣り人は、駐車場のもう1台の方で、地元の人。2日間よく歩いた。まるで、夏場の山歩きの予行演習のように。

7/25(土)26(日)新潟西4山 伝説のハイカー編 前回は2100山通過、今回で新潟県踏破。

・7/25登山道にツェルトで寝る。「長母山」山頂16:35「鉢ヶ岳」同5:25「小蓮華岳」同7:15「白馬乗鞍岳」同8:55 蓮華温泉口より大周回。初日10:45~19:45(9:00)、二日目3:20~11:10(7:50) 蓮華温泉より朝日岳へ向かう。湿原等経て下り、2度橋を渡る。五輪尾根を淡々と登り、花園三角点を経て五輪の森。雪溪、雪解けの沢、色とりどりの高山植物を見て 縦走路の「吹き上げのコル」。梅海新道を下り少しくと長母山山頂。鉄板の表示板。曇から 陽光が顔出す。風が強い。コルに戻ると途中に会った、重装備の人。今日は疲労のためか、虫のいない風が強いここで野宿とのこと。つづら折れの山道をゆっくり進み2度目の朝日岳山頂。風強く、居られない。とりあえず先にと、かなり下り、湿原・木道・ガレバ等経て雪倉のかな手前で日没。平坦登山道で休む。夜露でツェルトはかなり濡れた。未明に起床。満点の星空。暗い中、出発。急坂、ガレバ、強風に晒されながら、2度目の雪倉岳。朝焼け。避難小屋からの先客あり。直ぐに急坂を一気に下り避難小屋。途中日の出。避難小屋は暖かそうで7名位いた。

目指すは向かいの小山。ガレバ、這い松を越え、細かな岩屑の踏み跡らしきを辿ると鉢ヶ岳山頂。風強く、平坦な山頂。尾根伝いに進み、岩岩のやせ尾根を慎重に下り、登山道に合流。白馬からの下りの登山者多い。ここまでの縦走路は、高山植物のオンパレードで今が見頃。

疲労で動きが鈍い体をゆっくりモードで淡々と進み三国境。ここはもう、山人の人ばかり。縦走路を下って進むと小蓮華岳山頂。ここも人ばかり。朝食後白馬大池に下る。途中と展望を楽しみ(船越ノ頭ヲ経て、一気に下り、白馬大池。テント・小屋で都会の賑わい。一息入れ、大池のそばを経て、岩岩歩きをピョンピョンと楽しみ進むと白馬乗鞍岳山頂。大きなケルンあり。ここも団体等の人ばかり。先へ進むか考える。昨日、今日と暑さを感じない木陰・曇り、強風に助けられ遅いながらも軽快に進んできたが、夏の日差し強く、体力も消耗しここまでとする。白馬大池に戻り、分岐より蓮華温泉へ下る。日差しあるが、森林浴で緑陰あり、道も緩やかで 軽快に下り、蓮華温泉。丸1日で大周回でき、高山植物のオンパレードに会い、天候にも恵まれ過ぎた2日間に満足。好事魔多しで、前日気になっていた車のエンジンは、最初かかり、車道下り途中の池でエンジンを切り、身支度して出発しようとしたらエンジンがかからない。幾度かトライするが、空回り。バッテリー上がり?、携帯通じず途方に暮れる。ブースター準備し通過する車を待つ。1台目山登りに向かう人時間なく、次を待つ。次に登山帰りの車を止めて事情説明しブースターつなげエンジンかけるとかかる。助かった。お礼しか言えなかったが、富山ナンバーのホンダの車の方に大感謝。エンジン止めず、糸魚川まで出て、ガソリンスタンドで状況説明。バッテリー交換すると問題なしでエンジンがかかる。後は心配せず戻る。

夏休みで西鎌尾根～槍ヶ岳の下見参加合流ほか。

・7/30(木)「抜戸岳」山頂 10:00「弓折岳」同 12:50 曇りのち小雨 4:40～14:30(9:50)新穂高温泉より林道歩き。途中より笠新道へと進む。つづら折れの登山道でゆっくりと高度を上げていく。ブナ・ナラ等の原生林、高山植物を楽しみながら進み杓子平。朝食休憩、気にならない程の小雨。岩稜・草原地帯に入り高度を上げていく。笠と抜戸分岐より抜戸へ。ワングルの留守番役の若者に挨拶。尾根進むとすぐ抜戸岳山頂。三角点あり、霧の中の丘。尾根を進むが道不明瞭。本道に出会い、あとは尾根伝いにアップダウンしつつ進む。雪溪経て秩父平へ下り、上り返すと2ピークの(大ノマ岳)。展望楽しむ。大ノマ乗越に下り上り返すと弓折岳山頂。三角点あり、平坦な山頂、雲で視界今一つ。尾根を下り弓折乗越。昼食後雨が降り始める。双六への本道を小雨の中、半袖シャツで花を楽しみながら進み。双六小屋手前でやまゆき会の2人と合流。雨のため、山小屋に同宿。

・7/31(金)晴れ「縦沢岳」5:45～14:15(8:30)朝飯前に双六岳(2度目、二等三角点)を往復(3:55～5:05 1:10)。オレンジの満月が沈むのと日の出を楽しむ。晴天で山頂からの展望楽しむ。やまゆき会メンバー6人で西鎌尾根を辿る。坂を上るとすぐ縦沢岳山頂。大展望を楽しむ。ゆっくりと尾根を進み、道より外れた尾根の頂を確認(硫黄ノ頭、左俣岳:三角点あり、這松と花の山頂)して進み、鎖場経て、千丈沢乗越で昼食。硫黄岳への沢下りのルートと登るルートを探る。尾根・ガレバを経て槍ヶ岳山荘着。一息入れ、槍沢ルート組の2名と合流しやまゆき会メンバー8名で槍ヶ岳山頂を往復。人多く、岩岩、梯子等慎重に上り下り。山荘泊。夕日と満月を楽しむ。

・8/1(土)「奥丸山」山頂 6:30「錫杖岳」同 15:20 「伝説のハイカー編」 4:20～18:40(12:20)山荘を薄暗いうちに今日帰阪する若者と2人で下山。縦走分岐より飛騨沢を下る。ガレバで慎重に歩きつつ、笠へのモルゲンロード・西の空の満月等を楽しむ。千丈乗越への分岐で若者と別れ、乗越への坂を登る。途中より奥丸山への尾根に進む。草露等で濡れながら下り、途中笠ヶ岳に映る大槍、子槍の朝日のシルエットを分かれた若者と声賭けてお互い楽しむ。尾根を進み分岐より荷物デポしすぐ奥丸山山頂。三角点あり、朝日の中、槍・穂高・笠・双六等の大パノラマ楽しむ。分岐に戻り、槍平小屋へ一気に下る。静かな小屋を過ぎ、沢沿いに下る。滝谷避難小屋へて、白出沢で再度若者と合流。後は、林道を淡々と下る。途中、懐かしい、奥穂高登山口、穂高平小屋経て新穂高温泉に戻る。若者とセンターで別れて駐車場へ。装備を見直して、10:30に無料駐車場発。槍見館の脇の笠ヶ岳登山口を11:15発。ブナ等の樹林の中をトラバース気味に進む。途中昼食休憩。沢を越えて沢沿いに登る。どこが入り口か不明。笠～槍見の丸い表示版NO24経て岩峰見え少し行くと赤等の目印あり、沢に下る。テント3張あり、ここが、クリヤの谷。錫杖沢へ渡り、上方にテープ等確認。沢を少し進むと、テープがあり、テープ沿いに巻き道を登る。急坂等登り進み、途中に左へのテープを確認し、沢に下るとそこが、錫杖の岩小屋。残置ロープ、焚き火跡あり。ここから沢登り。テープ等頼りに高度を上げ、二股。左を選択し、厳しい沢を登っていく。途中手がかりなく、一度ずり落ちたが、すぐ再トライし、残置ロープを少し借りて上へ。後はルートを探しつつ沢を登り、水がなくなり、灌木・笹のある沢を登っていく。飽きる程の笹・灌木帯を経て、沢が終了。笹原となり、ピンクテープ目安に進むと稜線に出る。灌木・笹だが、テープと道らしきあり、北側に尾根沿いに登る。曲がった灌木等に邪魔されながらも進み。木陰で食事休憩。そこから少し登ると念願の岩岩の錫杖岳南峰。ピッケルあり、ロープがついている。そのロープを辿って1p経て2p目が北峰山頂。東側は絶壁で、さほど余裕ないが、写真を撮りすぐ下山。南峰に戻り、一息。笠ヶ岳、穂高連峰等の展望楽しむ。後は、来たルートに戻る。稜線でルート間違えたが、無事本道に戻り、沢は慎重に下る。クリヤの谷では、テントの人が居て挨拶したが、返されず、不思議な人々。笠～槍見の本道に戻り、登山口へ。登山口 17:45(6:30 未知の世界を楽しむ)。新穂高の露天風呂の閉め間際に飛込み入浴して駐車場に戻る。

・8/2(日)晴れ「安房峠」「安房山」6:45～9:35(2:50)飛騨から松本への峠。安房峠で祠を拝み、鉄塔道よ

り上のタンクへ。後は草藪で道不明。已む無く、尾根へと草等の藪を掻き分け急坂登る。樹林帯に入り、林業境界表示あり、さらに登ると道が出て来た。道を辿り、尾根を進む。灌木の中は良いが、笹原が覆うところは掻き分けてテープ等目安に登る。露等で濡れながら進み、別尾根に合流。尾根を進むと稜線尾根に出て少し進むと安房山山頂。三角点あり、快晴の好天。近くの電波の安房山中継所へより雨具付けて来た道に戻る。途中道を外したが、トラバースし本道に戻り、尾根道を下る。上り入口の登山道は、右の急斜面の草藪の中にあり、梯子、ロープ等かなりの急斜面で登りには不向きか。何とか慎重に道を探し下り、草藪をトラバースし、元のタンクに出て安房峠に戻る。この4日間初日以外は天候に助けられたが、慣れないところでの睡眠不足等で体力も限界のため今回の夏山はここまで。

8/8(土)9(日) 長野北1山、富山東1山 暑さ避けた山歩き

・8/8 「風吹岳」9:15~15:45(6:30)晴れ 北小谷 土沢登山口より周回。前々回行けなかったエリアの山歩き。合目等の表示、整備された登山道をブナ林楽しみながら、進む。晴れだが、森林浴を満喫しながら、高度を上げていく。水場で一息入れ、緩やかな道を進むと合流地点。すぐに風吹山荘。風吹大池に出て周遊コース進む。分岐より少し登ると風吹岳山頂。平坦な山頂で高妻山等の眺めよい。先に見える山を目指そうとしたが、急峻な上り下りで道もないため、断念。周遊コースに戻り、神の田圃湿原でトンボ・ワタスゲ、アヤマを探訪。周遊に戻り、大池を回りを高度上げ進み、大きな湿原に出る。天狗原への分岐・蓮華温泉への分岐を経て少し高みに上る。ピークで、笹藪経て湿原に出て、さらにピークへと藪を進むと(フスブリ山)山頂。三角点あり、白馬乗鞍等の展望ある平坦な藪の中の山頂。湿原経てもとの登山道に出て、来たルートに戻る。風吹大池へ出て、山荘を経て、登山表示を確認しつつ戻る。ブナの大木、鉱泉等の眺め楽しみ戻る。

・8/9 「負釣山」4:55~7:55(3:00) 富山に移動し暑さ避けて早朝の山歩き。舗道終点の登山口碑より往復。林道を少し行くと登山口。合目表示あり、乾いた尾根道を杉植林地経て、淡々と進む。整備された道で、階段、ロープ等あり。6合目で朝日。9合目から急坂登ると負釣山山頂。三角点あり、表示板で周りの山々を確認。尾根伝いにさらに奥へ。少し進むと南峰(立志の峰)山頂。剣等の展望楽しむ。ブナ林の中のピーク。来たルートに戻る。途中通勤前の人などの登山者に会う。身近な山のように。登山口で沢音あり、おいしい水をいただき、戻る。富山の百山の表示あり。暑さ等でバテ気味で、次の山等確認・散策して帰る。

8/16(日)晴れのち曇り 北ア1山「大黒岳」4:30~15:20(10:50)黒菱林道終点より大周回。薄さ暗い中、数十台の車が止まっている駐車場を出発。ゲレンデの林道、急斜面の作業舗道をゆっくりと登る。先行者も苦戦の急斜面。リフト終点より、つづら折れの遊歩道歩き。第一ケルン(八方山)は、三角点と別にピークあり。ご来光を拝む。途中抜いた、小柄な女性がいいピッチで歩いており、挨拶し後を歩かせてもらう。以後何度か追いつき、駐車場まで共に戻る。ケルン、池の高山植物等楽しみ、樹林帯経て岩岩の尾根を進み、唐松小屋。一息入れ、朝食。剣岳等眺め楽しむ。小柄な女性は、唐松は一度登っており、今日メインの五龍岳縦走路へ。来年のGW残雪時例会を考え、唐松岳へ急ぎ登る。2度目の唐松岳。山頂は、人が多い。槍、薬師、水晶等まで展望あり。すぐ小屋に戻る。小屋の受付は誰もいなく、GWの情報取れず。縦走路を進む。鎖の岩岩等を慎重に降りていく。かなり下り五龍との中間に今回目指す山を確認。鞍部より登り、ピークは、登山道の上。這松を掴み登って「大黒岳」山頂。三方絶壁で、五龍、唐松の眺め良い。縦走路に戻り、少し進み、振り返って見た大黒岳は、正に堂々と屹立する岩峰で、感嘆する。長い登り坂を経て、遠見尾根ピークの(白岳)を確認して、五竜山荘へ下る。一息入れ、山荘でGWの残雪歩きを確認。アイゼン、ピッケルは必携。ストックはNG。先行の小柄な女性には追いつけず、岩岩の急斜面の尾根を淡々と進み、2度目の五龍岳山頂。先行の女性は、ゆっくり山頂でくつろいでいた。鹿島槍等の展望楽しみ、景観を楽しみ

ながら、山荘に戻る。食事等ゆっくりしながら、メモ舞い降り無事回収出来事への拍手、八頭身美女姉妹、五龍岳の岩峰の山頂を飽かず眺めて、小柄な女性について遠見尾根を下る。岩岩の尾根等を時折吹く涼風に癒されながら慎重に下る。西遠見、大遠見のピークは、藪の中で入るも辿りつけず。長い尾根のため、途中急ぎ足で汗をかく。(小遠見山、地蔵の頭)で一息入れ、ハイカーの多い道を下り、アルプス平。ゴンドラで下り、麓でバス待ち。先行の女性は、ゆったりく寛いでおり、脱帽。バスで八方ゴンドラ、リフトを繋いで、作業道の急坂下り、黒菱の駐車場に戻る。小柄な女性は、谷川連峰等の馬蹄形を1日で回る恐ろしくタフな方。道理で、タフで歩きが早い。駐車場でお礼の挨拶。帰りは途中の北尾根の湯で汗を流す。天候は午後不安定ながら雨には降られず。次の山の下見して戻る。

本日(8月18日)、石楠花谷の下見に行ったところ、石楠花谷の遡行に約3時間(実働)かかりました。

このため、8月23日例会の全行程の歩行時間を「6時間」に訂正します。

石楠花谷のF1前に至るへつり場は一部足場水没、F1右の岩壁下もへつり不可、ということでF1越えは難易度Dと判断し今回は断念します。林道入り口からF1上部に至るルートを取ります。

石楠花谷左俣は沢身を安全に登れる個所が多く、楽しい沢歩きになりそうです。

8/23(日)「伝説のハイカー編」北アルプス4山 晴れのち曇り「岩小屋沢岳」山頂 7:15「鳴沢岳」同 8:25「赤沢岳」同 9:05「スバリ岳」同 10:25 3:40~13:35(9:55)扇沢出会・柏原新道より入り針ノ木登山口・扇沢への大周回歩き。前日天候不順なため、移動とし、暑さ等避けるため、未明よりライト点け出発。整備された登山道をゆっくり進む。水平道等なだらかな道・崖・ガレバ等所々注意し進む。扇沢駅と大町の街明かり、夜が明けて、上部が雲に隠れた山並みを眺めつつ、トラバース道の高度を上げる。低い樹林帯に出ると発電機の音聞こえ、間もなく、種池山荘。朝日となり、鹿島槍等を眺めて一息。あとは、縦走路を高山植物、山いちご楽しみながら進む。立山・剣等の展望楽しみ、一山登ると岩小屋沢岳山頂。ピークはハイマツ帯。前方より団体来てにぎやか。朝食後先へ。アップダウン経て、(新越岳)山頂。景観楽しみ、一気に下り、新越乗越山荘を通過。岩稜の坂を登り鳴沢岳山頂。立山・剣の眺め良い。懸案の丸山・黒部別山の山容を確認。さらに縦走路を進み、ガレバの坂を上ると赤沢岳山頂。三角点あり、視界は一瞬ですぐ雲の中。ここから岩岩の尾根となり、慎重に進む。急坂のガレバを経てスバリ岳山頂。晴れて、黒部湖・舟等一部見えたが、山々は雲の中。岩岩の山頂。さらに進み、先行の登山者に追いつき、急なガレバをゆっくり登ると2度目の針ノ木岳山頂。数名の登山者に合う。雲で視界今一つ。急坂を慎重に下り、針ノ木峠(小屋)。急坂をリズムよく、一気に下り、雪渓。木の杖2本でアイゼン付けず、バランスを取り、リズム良く、雪渓を楽しみながら下る。登る人、下る人も当然アイゼンをつけており、奇異にみられること気にせず、一気に下り雪渓終点。沢を渡り、急坂の斜面の夏道を慎重に登り降りして下る。途中湧水を堪能。大沢小屋経て淡々と下り、舗道出合い。途切れ途切れの登山道を下り、黒部へのバスの起点の扇沢に出て、少し下ると出発した駐車場着。曇り時々晴れの天候に恵まれ、暑すぎず、軽快に尾根・雪渓歩きを楽しむ。

8/29(土)曇り一時小雨 秋雨模様でピンポイントで富山東1山「中山」11:40~16:20(4:40)馬場島橋登山口より周回。遊歩道の整備された道を進み、五本杉ノ平。先客2名が杉の巨木(樹齢千~2千年)について話をしてお聞き。巨木の生命力に圧倒される。立山美女平付近には、杉の巨木群あるとのこと。尾根を進み、まもなく中山山頂。先客2人に挨拶。三角点あり、剣岳上部は雲の中ながら、展望楽しむ。平らな山頂。尾根を周遊コースで下り鞍部で分岐あり。山頂より奥に見えた山へのルートと思われ迷わず行けるところまで進む。整備された道を経て急坂の尾根を一気に登る。少しなだらかなるも登り続く。切れ落ちた急斜面を慎重に登り少し行くと(クズバ山)山頂。沢の音、小鳥のさえずり聞くと、周りは雲の中。奥は藪で、虫多く、

小雨が降り出しすぐ下山。この山は何と中山より 700mも高い山だと気づく。下りは天候がやや崩れ気味だが、天然杉、ダケカンバ、ブナを楽しみながら、一気に下る。分岐で遊歩道に合流し、草丈が伸びる登山道を下り、林道に出て、剣岳の早月尾根登山口、馬場島キャンプ場を経て戻る。天候不順のため、今回はここまで。

新日本山岳誌以外編

・9/5(土)、6(日)岩手南部焼石連峰 9/5 (天竺山)7:10~15:50(8:40)およね会メンバー等6名と山小屋泊山行。曇り時々晴れ 中沼登山口より大周回。幾つかの沢を越えて本流の川に出る。少し川沿いに登り、水量多い川沿いを登り、渡渉。急坂登り、尾根に出る。青岩乗越を経て、沢歩きを楽しみ、金明水小屋。おいしい湧水のみ、荷物をデポし軽身で夏油温泉への縦走ルートを進む。2P経て崩壊が進む急坂経て2度目の経塚山山頂。三角点あり、焼石連峰の山々、胆沢平野の散居村の眺めを楽しみ記念撮影し戻る。分岐よりピンクテープに導かれ、登るが、藪が本格化。山頂の見える稜線に出たところで5名に戻ってもらい、外さんと共に進むが、道なき藪で苦戦。外さんにも戻ってもらい、1人藪の薄いところ探し進み崖の尾根に出て、道らしきを辿り、(天竺山)山頂。三角点、有志の表示板あり。見下ろした金明水小屋に戻った5名に声で知らせて手を振る。外さんも崖のピークに居たので挨拶し戻る旨伝える。来たルート辿るも、稜線からの下りで道失い、少し道迷い。トラバースして来た道に出て、縦走路に出る。1時間10分の藪格闘。縦走路を小屋に戻り、金明水で宴会し小屋泊まり。

・9/6 6:35~12:30(5:55)(六沢山、東焼石岳)曇りのち雨 霧で視界乏しい中、出発。刈り払いされた道を淡々と登り、(六沢山)山頂。風強く、雨具の上を着る。さらに尾根を進むと雨が本降り。下の雨具もつけているところに、刈り払いしている胆沢山岳会の2人に会い、お礼述べる。少し進むと(東焼石岳)山頂。平らな山頂で雨本降りのため、すぐ下山。秋の花畑の草原を一気に下り、銀明水小屋で食事。湧水の銀明水を楽しみ、中沼を経て戻る。久しぶりに焼石連峰歩きが楽しめて、6人のメンバーに感謝。

9/13(土)富山東4山 伝説のハイカー編「大猫山」山頂 12:15「猫又山」同 13:35「釜谷山」同 14:30「赤谷山」同 17:45 曇りのち晴れ 8:35~21:55(13:20)ブナクラ谷ゲートより大周回。到着遅れ遅いスタート。林道経て、ブナクラ取水口工事現場登山口より山入り。急坂・杉の巨木楽しみ、尾根へ。やせ尾根岩等を慎重に登り、日差しが出て暑くなり、タオルを頭に巻いて進む。稜線尾根に出て、池・湿原、展望楽しみ、尾根を進むと旧三角点のある大猫山山頂。剣・立山・大日・富山湾の眺め楽しむ。尾根伝いに進み、下山者に挨拶しルートを確認。次の山頂手前で地元の人に会い、山情報交換。すぐに猫又山山頂。三角点あり、剣立山連峰、富山湾、北ア(朝日から鹿島槍まで)の大展望楽しむ。さらに奥へ。藪経て草原に出て、尾根伝いにテープ・踏み跡頼りに、荷物をデポしほぼ空身で進む。道あり、特に困難な藪なく、淡々と草原の尾根を辿り、釜谷山山頂。遂に毛勝3山踏破。風あるも心地よい。眺めは360度で、次の課題の黒部別山も見える。来たルートに戻り、猫又山。下りは分岐よりブナクラ乗越へ向かう。岩岩等慎重に下るが以外に早くブナクラ峠に辿りつく。虫多く、荷物デポし、ほぼ空身で、すぐ反対側の尾根を登る。トラバース気味に進み、東側の沢筋の岩岩の急坂を滑りながらも登り、稜線尾根。急坂を呼吸整えゆっくり登り、赤谷山山頂。テント1張。カップルのように。剣等展望楽しみ、薄暗くなる中、急ぎ下山。稜線尾根は急ぎ足で下り、沢筋の岩岩は、ゆっくり下ってからライト付け進む。池で道間違え引き返し、無事ブナクラ峠。虫多く、すぐブナクラ谷へ。岩岩で一休み。明かりでは視界狭く、岩岩で道間違い。已む無く谷に下っていくと本道に出会い一安心。後は、沢沿いの巻き道を支流で対岸の道を探しながら進む。視界狭く、岩で足を滑らせながら、延々と巻き道歩き。途中道間違い、幾つか戻っては歩いた。沢の音を聞きながら視界限られる中進む。ライト消すと本当の真っ暗闇。巻き道歩き等で疲れた頃、工事現場に出て、林道下り、取水口の現場事務所の登山口に

戻り安堵。林道を疲れた足を何とか動かしてゲートまで戻る。今日の疲労と明日天候不順なため、今回はここまで。

・シルバーウィーク第一弾

9/19(土)～21(月)北アルプス3山 伝説のハイカー究極編「池ノ平山」山頂1日目 16:05、黒部3大岩壁の2つ「黒部別山」同2日目 8:30「丸山」同 16:15 1日目 6:45～21:20(14:35)2日目 6:20～18:15(11:55)3日目 5:50～8:45(2:55) 全て天候晴れ

大町扇沢よりトローリーバスで黒部ダム。下ノ廊下へのルートでダム下の川に下り、内蔵助谷出合まで下ノ廊下と同じ。同ルートはまだ通行止め。谷の左側の整備された道を登る。途中道間違え急斜面のトラバースは登ったは良いが下りれないと心配の種。内蔵助平分岐で一休み。一人若い登山者は余裕。先行くもすぐ抜かれる。17 kgのリュックは、日差しの強さも有り、荷が重過ぎダウン手前。止む無くハシゴ谷乗越で早いテント設営(11時、山での初テント:テントもNEW)

途中、出会った女性が追いつき、真砂沢でのテント設営勧めるが、黒部別山への起点につき、設営し真砂沢へ急斜面、梯子・ロープ、大きな岩岩・小沢経て真砂沢。3つの連続する橋を渡り、川の左側を淡々と整備された巻き道を辿り二股。先行の2人の登山者に追いつき、仙人新道の尾根に取りつく。暑さと睡眠不足、普段背負わない荷物の重さ(テント等デポし軽くなったが重い)と急坂で動きは鈍く、バテバテ。2人の登山者にもあっさり道を譲る。四苦八苦して仙人峠。荷物置き空身で、池ノ平小屋に下る。小屋の主人の話を聞いて、テント設営している先行者に挨拶しゆっくり登る。草原の急斜面を空身だが動きの鈍い体を騙し騙しして稜線に出る。ピークは無理と小屋の主人に言われたが、地図と標高確認すると腰を下ろした先にピーク見え少し進むと池ノ平山山頂(南峰)。少し標高の高い北峰は行けるルート不明で、体力・時間もタイムアップ。眼前の剣岳等の岩峰の鋭さ、北アの白馬から鹿島槍等の大展望を楽しむ。来たルートを辿り、仙人峠で荷物回収。仙人新道を下る。途中よりライト点け二股。橋を渡り、河原歩き。少し道迷いするも、ゆっくり川の右側の登山道を辿り遡る。3連の橋を渡り、一息入れて登りへ。午後8時過ぎ2人の登山者が下りてくる。道迷いし、河原に降り、ツェルト泊とのことで場所等アドバイス。こちら先方もお互いびっくり。急坂・大きな岩岩のトラバースは目印何もなく、しばし彷徨うが何とか道らしき見つけ、坂登る。ロープ、梯子の急坂経て遅くにハシゴ谷乗越のテントに到着し就寝。長い一日だった。

・二日目 明るくなってから起床。黒部3岩壁の一つ黒部別山に西側尾根よりトライ。道らしきあり、テープ等頼りに尾根を登っていく。大きな松等は根本すつきりで一息入れながら、淡々と進む。途中より笹藪濃くなるが、何とか稜線に出る。ピンクテープ2つ。北側に稜線辿り藪かき分け進む。所々東側の草原に出る。少し行くと、東側の広い草原と山頂が見え、ラッキーと思い進む。岩岩が草の下に隠れ慎重に進む。格段に歩き易く、間もなく悲願の黒部別山山頂。平坦な山頂だが、剣連峰、北アの大パノラマを朝日のもと楽しむ。東壁は論外で無理だが、残雪期でなくとも来れて大満足。下りは、旬の山苺楽しみ進むも、草原のピンクテープ過ぎて尾根を進みすぎ、南峰の見えるところで間違いに気づき、テープに戻り尾根へ下る。すぐの下りを広い尾根に進み、道迷いに気づき、トラバースして本筋に戻り、道を確認しながら戻る。日差しの明るさ・暑さ等に少しタピレながらも戻る(6:20～11:05(4:45))。ハシゴ谷乗越でテント撤収。登りの人が続々現れ、挨拶しながら、再び重いリュック背負いゆっくり下る。若干余裕でたが、荷物の重さは変わらず(テント、万一のロープ、食糧多すぎか)。内蔵助平で、このまま危険急斜面下りれるか心配で、取り合えず、テント設営。荷物はロープと少量の食糧にし丸山へトライ。真砂岳への分岐を少し進み、河原へ下り靴を脱ぎ渡渉。方向を確認し、何も目印等ない藪に入る。試行錯誤で進み、何とか乗越からも見えた草原に出る。迂回して沢を渡り、気持ち良い湿原を奥へと進む。山際に進むにつれ、背丈以上の大きな植物が行く度に現れ、掻き分け沢を目指す。最初の沢は違う沢のため、奥の沢に進む。大きな草を掻き分け目指す沢に出て

坂登る。目指す15mほどの滝に出会い、右の草付き登るが急斜面で手掛かり途切れ、7m程ずり落ち。幸い土砂で止まり、ケガなし。止む無く右の藪尾根に何とか取り付き後は、踏み跡等何もない急坂の尾根をゆっくり坂登る。藪の急坂尾根との格闘で時間は刻々と過ぎ、大きなダケカンバで休憩。高度確認すると間もなく稜線のはず。再び元気だし、藪に突入。間もなく広い30m程の池。淵を東側に回り込む。一息入れ周りを確認。一段高いシラビソを目指す。さらに高みあり、尾根より窪地のルート辿ると先人の云う3m程の池あり、間もなくと少し行くと広い平坦地。先は下っており、丸山山頂を確認。藪の中で、かろうじて黒部別山の展望あり。来たルート辿るも最初から道迷い。3mの池見つからずに大きなシラビソ。斜面を下り30mの池。ダケカンバ経て下るも登りは夢中で回り見えず、2度尾根道迷い。下りやすいルートに出て下りると15m滝の上。止む無く右の人が歩きそうなルートへ回り込む。急斜面に出て、草付きしかなく、草を掴みながらズリ下る。幸い少しづつ下れて無事15m滝下に下りて、沢水を楽しむ。背丈の高い草原を掻き分け、来た草原を経て、藪突入。川の音に励まされ、何と渡渉した位置に戻り渡渉。大きな茶色のイタチ(オコジョ?)に向こうも驚く。本道へのルートわからず再び藪突入しすぐ本道。すぐ分岐のテント場に薄暮無事到着(13:50~18:15(4:25))。遂に1日で、黒部3大岩壁の山2つに残雪期でなく(当然東壁でなく)藪尾根歩きながら初見で踏破でき、これ以上のことは、一生ないと思われる。

・3日目 5:50~8:45(2:55) 晴れ 内蔵助平で明るくなり、テント撤収。テントの中で下れないときの対応を始終考えていたが取りあえず、行けるところまでと出発。淡々と谷の右斜面をトラバース気味に下りてゆく。道はどれもしっかりしている。急斜面でオヤこんなどこあったかなと梯子段を下る。その終いに道が二つに分かれ巻き道のハシゴ道と別に岩壁を巻くルート、先にロープが下がっているの確認。気にも留めず、どの辺で急なガレバと大きなボルト2つの急斜面の岩に出くわすか、おずおずしながら下る。ドンドン高度が下がり、内蔵助出合分岐に到着。一安心。心配のない道があるのに登った時は、間違ったルート経て本道に合流したとやっと確信。下山できるか3日間がうそのように心が晴れ、登りの登山者と気楽に挨拶し、4000名山のティーシャツ来ていて話したら、記念に写真も撮られてしまった。来るときは放水に気づかなかった黒部ダムの放水を楽しみ、下の廊下開設の準備にテント泊している(?)方々に挨拶し登った黒部3大岩壁の2つ(藪ルートだが)を写真に収め、トローバス発着場に戻る。

・シルバーウィーク第2弾

9/22(火)北アルプス2山晴れ 「南沢岳」山頂 9:10「不動岳」同 10:15 3:00~16:05(13:05)高瀬ダムには、タクシーしか入れず、長丁場のため、七倉山荘傍の駐車場を未明に出発。ライト点け、暗いトンネル進む。途中新高瀬ダム方面に道迷いしながら、淡々と進み、ダム下のつづら折れの道。満天の星を眺めながら、カーブを数えて進み、ダム到着。槍方面・烏帽子方面への方向を確認して烏帽子方面へ。トンネル・吊り橋・濁沢キャンプ地、砂地ルートを道を間違えながらも進み登山口。北アルプス裏銀座登山口(もう一つの終始点新穂高)、北アルプス3大急坂の「ブナ立尾根」をNO12の表示に助けられゆっくり進む。途中、日の出拝み、コースタイムよりかなり早く烏帽子小屋。尾根を進み(似烏帽子岳)で展望楽しみ、烏帽子岳分岐を淡々と通過し北へ向かう。岩岩を経て、ナナカマドの紅葉が木によりグラジュエーションの変化が鮮やかに読み取れ感激。池、岩・紅葉・緑と日本庭園の天然の大風景を楽しみながら進む。急斜面登ると南沢岳山頂。二等三角点。晴天で、360度の立山・剣・針・蓮華、薬師・水晶等北アルプス大パノラマ楽しむ。テント泊の人に挨拶。崩壊する脇の尾根道を下り、南沢乗越より登り返す。踊り場経て一旦下り、ザレタ登山道を登り返すと稜線。間もなく不動岳山頂。大勢の登山者。縦走は、読売新道からの大周回、針ノ木からの縦走、船窪からの周回が主。三角点探すが見つからず、ピークを探して時間経過。急ぎ足で戻る。南沢岳稜線南端から見る景色は圧巻。池・紅葉・緑・烏帽子岳・白い岩・砂。ここから日本庭園が生まれたと思われる風景に日本風景への憧憬を感じる。急坂下り、庭園の紅葉楽しみながら進み烏帽子分岐。頂上

直下まで荷物持ち、後は、空身で鎖・岩の削られた足踏み頼りに楽しみながら一気に2度目の烏帽子岳山頂。再度日本大庭園の展望楽しみ下る。途中すれ違った夫婦に挨拶。4000 名山のティーシャツでトライ中を説明。分岐へ戻り、後は一気にブナ立尾根を番号確認しながら下る。下りの時刻で、高瀬ダム待機の終タクシーに間に合うかで心配で未明に出発したが、余裕で間に合い、乗り合いして七倉山荘傍の駐車場に戻る。明日も好天だが、体力限界で今回はここまで

・9/26(土)27(日)北ア・富山 3 山

9/26 北ア「大日岳」7:40～15:00(7:20) 称名の滝駐車場より往復。滝への舗道進み、霧雨の煙る中、滝を眺めつつ登山口。霧雨で先が心配されるが取り敢えず上へと登る。整備された急坂をゆっくり確認しながら進む。なだらかになり、先行パーティに追いつき挨拶。さらに進むと平坦な湿原の大日平。ラムサール条約登録の湿原。天候は、やや明るくなって霧も晴れてきた。大日平小屋を経て、2 度渡渉する頃には、山も晴れてきて紅葉の山陵が見えて満足。岩岩の道をゆっくり進み、大きな岩を経てトラバース道に出ると大日小屋も見え間もなく稜線。そのまま、左の尾根を進むと大日岳山頂。二等三角点。剣・立山連峰、奥大日への紅葉も見頃。地元の猛者と出会い挨拶。小屋を経て反対側の(中大日岳)山頂。大きな岩の山頂。七福園の湿原を楽しみ、小屋を経て来たルートを紅葉楽しみながら下る。急斜面より朝と同じ霧雨の中戻る。

・9/27 富山東「鉢伏山」6:55～10:50(3:55) 有峰有料道路小口川より入った小口川ルート登山口より往復。今日も霧雨状態の中、急坂をロープ等目安に一気に高度を稼ぐ。ブナの尾根を進み、沢筋を登ってゆき、再び尾根となり、アップダウン繰り返して高度を上げてゆく。高度さがあり、意外と長い急坂の尾根歩きに飽きてきた頃、平坦な広場。さらに行くとも鉢伏山山頂。三等三角点。灌木の中の山頂、雲で視界なし。来たルートを淡々と下り、この山に今日は誰も来ないだろうと考えていた時、下から大勢の声。7 人位の地元パーティーに会い挨拶。天候回復期待で来たとのこと。急な下り坂は一步一步慎重に下って戻る。

「大辻山」12:05～14:45(2:40) 少年自然の家奥の長尾峠より往復。峠には車が一杯に駐車。登山口より霧雨の中、尾根を進むと(長尾山)山頂。巨木あり。尾根を下り登り返すと(奥長尾山)。尾根を下り、番号表示に励まされ急坂をブナ、ミズナラ等の森を楽しみながら歩く。人気のある山で、幾人もの下山者に挨拶しつつ登ると大辻山山頂。主三角点のある広場。太陽顔出し、日差しも強いが、雲の中で視界今一つ。下りは、小さな2 人の子供連れ夫婦等に挨拶して、林道に出て戻る

9/3(土)北アルプス1 山「唐沢岳」5:15～17:50(12:35) 餓鬼岳白沢登山口より往復。駐車場は一杯で空きスペースに停め、薄明るくなりかけに出発。林道経て登山口。沢に架かる橋を経て、沢沿いの道を補強された階段・ロープ等を支えに進む。沢筋歩きは、橋・階段、梯子等の連続で暗くなつては、通行不可。補強されている木道も古く危ういもの多し。整備はされているがスリルと隣り合わせの沢筋歩き。水場の番号表示を目安に、淡々と進み、大きな魚止めの滝を過ぎ間もなく最終水場。一息入れ、尾根の急坂を落石・滑落注意の表示板に留意しながら高度を上げていく。餓鬼との中間地点(大風山)で一休み。後は尾根伝い、松・シラビソの林を進む。餓鬼直下の百曲入り口に、少量の沢あり。つづら折れのダケカンバの樹林帯(紅葉は終わりで落葉)をゆっくり進むと、小屋の建物が見え間もなく餓鬼岳小屋。寄らずに登り、すぐ2 度目の餓鬼岳山頂(10:00)。槍、立山・剣・鹿島槍等北アルプスの山々の 360 度のパノラマを楽しむ。奥の今回の目的地に向かう。途中荷物をデポし、サブザックの軽身で唐沢に向かう。後から追いついてきた若い人に先に進んでもらい、後を追うが早い。だが 1Pで先を見つめ、躊躇している。ここまで5 時間で下りは普通の人並み歩きのため、今回は引き返すとのことで、挨拶。1 人唐沢に向かう。一旦大きく下り、シラビソ林を登り下りして進む。唐沢直下の急坂を上り、大きな岩岩は左に回り込み、一旦下る。途中、トレランの1 名と軽身の1 名に会い挨拶。山頂直下の急坂の直登をゆっくりし慎重に登り、稜線を進むと間もなく、唐沢岳山頂

(12:05)。三角点あり、餓鬼と同じく北アの360度の大展望を楽しむ。風が強い中、食事し一息。来たルートを一気に下る。慎重に下る。餓鬼への上り返しは、ゆっくり、山のブルーベリーを摘み、息を整えながら登る。デポした荷物を背負うとずしりと重い。稜線を餓鬼岳に戻る(14:20)。燕から縦走してきた空身の2女性に挨拶。明日唐沢に登るとのこと。沢筋でのライト点灯歩きを避けるべく、時間を気にして、急ぎ足で百曲りを一気に下る。途中、テント泊・小屋泊まりの人、数名に挨拶。少々足に負担かけて。尾根を一気に進むが中間点が遠い。急坂下りを経てさらに下ると中間点の大風山。一息入れるが、時間に余裕なくすぐ下る。次の目安のガレバ、最終水場を目指し、足に負担かけながら急ぎ足で下る。ガレバは慎重に下るも、その先は、こんな急坂登ったのかと思う急坂を梯子等に助けられながら、一気に下り待望の最終水場。ゆっくり食事している若者は、ここでテント泊とのこと。さらに下ると足元が疲労でやや覚束ない人に挨拶しすぐ先へ。登る時は気づかなかったが、登山道整備の大変さを思いながら、沢筋歩き。崖の側道は、木道整備が追いつかない程の古い木道もあり、気にしつつも、淡々と下る。目安とした作業道具等のある橋に明るいうちに着いたが疲労からか、後は、こんな登り返しあったかなと云うくらいスローなゆっくりペース。最終の橋を渡り、登りかけに獣の動きあり、笛取り出し吹きながら登山口に戻る。獣はサルだった模様。膝と足の裏に急坂等の急ぎ足下りの影響が出てやや痛みを感じながら薄暮に駐車場に戻る。秋の日は、夕暮れが早いことに改めて気づく。明日予定していた近場の山は、今日以上のロングコースで大町温泉郷の薬師の湯でも足の裏と膝の痛み・疲労取れず、今回はここまで。

10/9(金)～10/10(土)伝説のハイカー超ウルトラ編、北アルプス「硫黄岳」物語が語れる42時間ドラマ 休暇取り4連休。但し2日目天気予報雨の気配で前倒しで行動。概要:道のない藪山ルートで北アルプス北鎌尾根の沢を挟んだ向かいの山標高2553m。ルート:残雪期に高瀬ダムより入り、硫黄尾根を辿る。ヤセ尾根で脆い岩のため、技術必要で命掛けのルート。今回は、先人の知恵を借り、新穂高より入り西鎌尾根の千丈乗越の最高点2700mより千丈沢を下り、約1700mより急坂の道のない藪を歩き硫黄岳に登り同じルートに戻るもの。1日目5:35～23:50(18:15)、2日目5:20～23:40(18:20)天候晴れのち曇り 愛用の40ℓザックにツェルト、ロープ、寝袋、防寒着、食料4日分詰め、2本の愛用杖をつけて出発。センターで登山届け出しいざ出発。もうすでに明るくなっており、林道をショートカットし白出沢。夏用テント・ごみ箱、トイレ撤去済みで湧き水で一息。整備された大岩が配置された上をポンポンと飛んでゆく。子供は大変と思うのだが、大人しか歩かない?。後は、リズム良く荷物の重さを気にしない程軽快に谷を越えて槍平小屋で朝食(9:00)。晴れて心地よい。夏の西鎌槍山行思い出しながら、軽快に進み、槍と千丈乗越分岐。一息入れる。平日のため、ここまで、登りは若者一人、下り数名に挨拶。槍は昨晚雪で寒かったとのこと。急坂登り千丈乗越(11:00)。ここからが核心部分で行き帰り誰にも会わず。帰りに溪流釣りらしき人の足跡確認したのみ(夜間明かりが早い動きをして、UFOかと思ったら、溪流人の明かりだった模様)。ザレタすり鉢状の水のない沢を下ってゆく。途中より、雨水の浸食で掘れが深くなった沢を下ってゆく。右にカーブするところでピンクテープあり。その先で熊が悠然と沢を横切る。大声出し、笛を吹く。熊は灌木の中へ。さらに下り、沢水が流れる六ノ沢出合、ピンクテープ2つ。1900m位まで歩き易いところを歩く。そこより下流は狭く、水量多いため、左岸を高巻き等して下る。崩壊地の沢と出合ったところを登山口とし、荷物デポ。サブザックの軽身で急坂藪に入ってゆく(14:30)。藪の薄い所、休める大木目安に、ゆっくり高度を上げてゆく。大岩は主に左に迂回し、ヒノキ等の歩きやすいところを進む。途中、大岩から隣の尾根にトラバース。中央に踏み跡らしきあり。少し登り笹を掴んで左尾根へ。ヒノキ、笹、ダケカンバ等の中、踏み跡らしきを辿り、崖脇に出る。北鎌尾根・槍の展望あり。ここから斜度のキツイ、笹藪、高ハイマツ藪を経て、斜度がさらにキツイ小ハイマツ藪は歩き易いが、また高ハイマツ帯。崖近くの尾根を歩き何とか、冬道の尾根に合流。ダケカンバ目安。軽身だが、かなり体力を消耗。高ハイマツ、笹藪、北側草地を経て念願の硫黄岳山頂。2Pあり、奥の藪

に行くが何もなく戻る。三角点探しに時間取り、ようやく発見。平坦な山頂。薄暮ながら、北鎌・槍の展望あり。ライト付けすぐ下山。何とか、冬道合流点まで辿りつく(18:20 鹿の鳴き声あり)。問題のハイマツ急坂下り。ルートが崖際に取り過ぎ道迷い。深いハイマツ、笹藪をさ迷い揚げ句には、何を勘違いしたか、崖近いところをトラバース。掴むものも少ない尾根に取り付き、大岩を掴むと岩が崩れ出し、奈落の底へ。一緒に落ちずに、左臀部のズボン破れ等で済み、命拾い。慎重に尾根を上へ上へとハイマツ・笹藪漕ぎして何とか元の冬道合流点に戻る(21:10)。風冷たく、ここでのビバークは無理につき、地図を見て、再度下りにトライ。崖尾根より小ハイマツに入り、来たルートの模様で白テープも確認。下ってゆくが、また、道迷い。仕舞には何も下が見えない崖に出て、諦めがつき少し登り、ヒノキの側でツェルト泊。翌日明るくなり周囲を確認。西側崖で南も崖、取り合えず、東へトラバースし2つ目の尾根に見覚えあり、笹を掴み大岩の下へトラバース。後は、ルートらしき尾根をドンドン下り、無事デポ地に戻る(6:30)。早く戻れると荷物整理すると命の次に大事なカメラ(1山1写真で撮りだめデータ在中)がない。探すがないので時間早いため、已む無く再度、ビバーク地へと登る。体力キツイが、何とか昨日と似たルート辿り、大岩・笹掴みトラバースし、2尾根目のツェルト泊に戻る(8:25)。カメラ見当たらない。時間まだあり、あと覚えのあるのは、山頂のため、再度、山頂へ。昨日とほぼ同じルートを登る。大小ハイマツの急坂は休み休みし冬道合流経て、2度目の硫黄岳山頂。カメラあり安堵。2度と来れない360度の風景をカメラに収める。天候悪化が、まだのようで、太陽が顔出す曇り空。下りは慣れたものでスイスイ下る。時折笹藪滑りしつつも。一度尾根ミスで急坂下るも引き返し元のルート歩き、問題の大岩へのトラバース。上部に道らしきあり、トライ。かなり危ない下りで尾根移り、さらに下への下りも急。白テープあり。個人的には、笹藪掴まりトラバースが安全に思われるのだが？。後は、ルートを確認しつつ一気にデポ地に戻る(12:40, 13:00 発)。白糸の滝等来たルートと同じルート辿り、六ノ沢出合で一休み(15:35)。後は、水のない沢を淡々とリズム良く、小股で疲れないよう登る。目安の大岩の上で一休み(17:15)。ライト準備。さらに深い沢を辿ると違う槍への沢。途中で軌道修正し来た沢を急ぎ足で登る。暗くなり、目安の乗越の標柱見えないため、土とガレバの歩き易い急坂を上り、尾根らしきに出る。そこは、西鎌ルートで、乗越の遙か下。ライトをつけ西鎌尾根を淡々と登り千丈乗越(18:00)。強風で寒くすぐ下山し、槍分岐。一息入れ、一気に下る。途中道間違え、沢下り、異変に気づき戻るが、体力消耗。長く感じる少し荒れた道を下り槍平小屋通過(19:40)。ほとんど休まず、淡々と進むが突然のライト消滅。昨晩使い過ぎ等のためか、小に切り替えると点灯。ゆっくり進む。滝谷は大きな沢のため、手前で電池を交換。明るいライトでルート探し、ピンクテープと踏み跡らしきを辿り、迷いつつも、無事橋を渡り通過(20:40)。チビ谷(21:00)から白出沢が長く感じられたが、大岩飛び経て白出沢で水のみ一息(21:40)。電池切れ心配し、小ライトでゆっくり、荷物の重さ感じながら、林道下り。ピッチが上がらない。穂高平小屋経てあとが長く、カレーパンかじりながら、延々と歩き、道がおかしいと思ったら、笠ルートの道に出てからセンターに無事戻り、下山届け提出。駐車場に戻り、すぐ敷いてあった車内の寝袋に潜り込む。翌朝未明より強い雨で、移動した宇奈月温泉で満身創痍(左臀部の擦り傷、左中指の爪割れからの指の変色、無数の腕・足脛傷、顔も)を癒す。昼食・道の駅周り等で待機したが、激しい豪雨で今回はここまで。雨に降られず、2日間で36時間の山歩きは、天候に恵まれ、体力の限りを出し、奇しくも、初見で2日続けて硫黄岳山頂に立てて大満足。もう燃え尽きかけているが、先は長い。ルートミス、怪我は当たり前で、体力をつくり進まねば・・・2度できない今回の山歩きは、永遠に記憶に残る破天荒な山歩きでした。反省は山ほどあるが、とりあえず無事投稿でき満足。

10/24(土) 富山東部 2山晴れ「僧ヶ岳」山頂 10:00「駒ヶ岳」同 11:15 6:25~14:55(8:30) 宇奈月温泉林道が工事通行止めのため、ゲートより林舗道、第1,2,3登山口経て梯子登り、尾根に取り付く。途中先行の5人のパーティーに追いつき挨拶。紅葉を横目に、急坂を登り、あとはなだらかな尾根を淡々と進む。烏帽

子分岐経て、旧道通行止めより迂回し尾根をトラバース気味に進み(前僧ヶ岳)。なだらかな丘を進み、僧ヶ岳山頂。二等三角点、駒ヶ岳、毛勝山、街並みの展望楽しむ。昼食後別ルート(片貝東又:急坂コース)の若者が到着し挨拶。先行して稜線を下り上り返すと(北駒ヶ岳)。さらに進み、大きな岩岩を抜けて進むと駒ヶ岳山頂。平坦な丘の山頂で三角点あり。霞みながらも、北アルプス、毛勝山系等の眺め楽しむ。追いついた若者に挨拶し下山。稜線は展望楽しみながら進み、僧ヶ岳。一息入れ一気に下る。天気予報では3時以降降雨予想のため。途中の紅葉を楽しみ、散策の人を追い抜き早々に下山。予報どおり4時過ぎに雨。夕方から大降りになる。

・10/25(日)晴れ「伝説のハイカー編」**「奥鐘山」**8:50~15:30(6:40)黒部3大岩壁の1つ。トロッコ列車で宇奈月駅より始発の電車で樺平駅。車中、紅葉が見頃で寒さ対策をして、紅葉、岩岩の景観を楽しむ。帰りの終電(17:25)に間に合うよう、遊歩道を急ぎ足で進み、祖母谷温泉の白馬と唐松の分岐。晴れて天候抜群。唐松登山道へ入り、谷に沿った、トラバース道を岩、枯葉に注意しゆっくり高度を上げてゆく。ガレバ、急斜面、岩岩等経て、大きな岩と滝の上で一息。紅葉を楽しみつつ、進むと南越乗越。一旦上まで進み、戻って藪ルート入り(11:00)。急斜面登った1Pで荷物・杖でデポし、サブザックの軽身で笹・灌木の藪を進む。尾根沿いの藪薄いところ探し進むと中間の2Pの松(11:35)。藪を掻き分け、細尾根(北側絶壁)は慎重に進み、山頂直下。急坂を先人の赤布を確認しつつ、藪の薄いくぼ地等探して急坂を進み、念願の奥鐘山山頂(12:30)。建設省の3級基準点あり、大木の枯れ木も。雪を抱く、唐松、白馬連峰等の展望楽しむ。快晴でこの上ない天気。昼食後、来たルートを慎重に確認しながら下り、藪の薄いところ探し進み中間P(13:30)。尾根を辿り、デポした荷物回収し下る。ルート迷い、転びズボンに鍵穴。めげずに淡々と下り、トラバースして唐松登山道に合流(14:05・3:05の藪歩き)し安堵。後は、落ち葉、苔の濡れた岩、ガレバ、急坂の岩場等注意しながら慎重に下り、祖母谷温泉分岐。紅葉見頃で行楽客が多い遊歩道を黙々と歩き、余裕で樺平駅着(15:30)。紅葉見物の客多く、終電の変更でも1時間強待ちトロッコ列車乗車。寒さ対策して、紅葉、十三夜の月を楽しみながら宇奈月駅に戻る。これで、黒部3大岩壁の山3山全てを踏破。岩は登れないので、いずれも藪歩きながら山頂に立ててこの上ない満足に浸る。当初不可能と思われた3山に今年相次ぎ登れて、これ以上の充実した山歩きは今後できそうにない(北鎌尾根の槍ヶ岳、先々週の硫黄岳含め)。

10/31(土)11/1(日)中央アルプス1山、新日本山岳誌以外百高山編1山 天候で登れそうな中アへ。

10/31**「将基頭山」**7:15~15:00(7:45)晴れ 桂小場登山口より往復。駐車場に数台の車。案内表示を辿り、トラバース、水場経て、なだらかな山腹の道を進む。カラ松の紅葉の中、整備された歩きやすいを進む。尾根に出て、急坂を上り、中間点の大樽小屋で一息。さらに進むと先行の2人に会い挨拶。風強いとのこと。岩等の急坂・神社等経て分水嶺で一息。冬風強く、重装備して、ハイ松を進み将基頭山山頂。岩・砂の山頂で、駒ヶ岳、南ア、富士等の展望楽しむ。先へ進むが遠いため引き返し、分水嶺分岐まで引き返し、反対尾根へ。ハイマツ、灌木道、大岩(行者岩)経て(茶臼山)山頂。三角点、展望楽しみ、分水嶺経て来た道に戻る。

・11/1 百高山編(麦草山)6:10~12:50(6:40)晴れ 木曾駒高原の旧スキー場駐車場より周回。寒さで感覚今一つの中、出発。林道進まず、すぐ旧スキー場の道らしきを辿る。草等生える東屋で表示確認し、木曾Bコースを目指す。草藪の中、踏み跡らしきを辿り、谷に出る。道不明となり、獣道を辿り、急坂の尾根を上へ上へと登る。林業境界表示あり、辿って急坂尾根の笹藪(膝・腰高位)を進んでゆく。息を整えつつ、ゆっくり進み、稜線尾根に出るが、道らしきなし。尾根を少し登ると木曾Aコースの登山道に合流。安堵して、同登山道を上り、山腹をトラバースした山が気になり、登り易い尾根筋見つけ、荷物デポし空身で、倒木等の尾根を進む。道らしきあり、進むと(赤林山)山頂で、シラビソ等樹林の中に三角点あり。来たルート戻り、

荷物回収し尾根を進む。中々高度上がらず、一休み。少し進むと駒への6合目表示。さらに登るとすぐ、避難小屋へのトラバース道分岐。古い麦草岳への標識あり、道もあるので、その直登コースを進む。急坂、藪化しつつある道を淡々と進む。途中トラバース道では、残雪の氷化した道と灌木ヤブあり、慎重に登り、大岩経て、稜線尾根に出る。あとは、ハイマツを掻き分け進むと麦草岳山頂。三角点あり。駒・御嶽等の展望楽しみ、最高点を踏み、灌木が勢いを増す通常ルートを下る。避難小屋で木曾 A,B、木曾駒ヶ岳分岐を確認。一息入れ、本当の木曾Bコースを下山。ショートカット等して急ぎ足で下る。枯れた力水で一息入れ、下る。最後は、渡渉し、長い林道を下り、登山口表示経て駐車場に戻る。

・11/3(火)、1/4(水)休暇 中央アルプス2山、北アルプス1山

11/3 中央アルプス「三ツ沢岳」山頂 10:35「桧尾岳」同 14:05 7:45~17:55(10:10)晴れ 菅ノ台バスセンターよりロープウェイ経て千畳敷往復。新雪を踏みしめ、極楽平。稜線尾根進み、宝剣分岐より三ツ沢の尾根へ。新雪(10cm前後)で歩き易い道を一気に下る。ハイマツの雪でズボンびしょ濡れで途中より雨具付けスピードアップ。稜線の山を幾つか越え、大岩はロープに助けられ進むと三ツ沢岳山頂。大きな岩の山頂で三角点あり。駒・空木、南ア等の展望楽しむ。来たルートに戻る。途中先行の夫婦が、アイゼンつけずに登ってくる。挨拶しアイゼン保有とのことで、憂いなく、雪が解けつつある道を下り、登り返し、宝剣分岐。極楽平の先で団体に合い、さらに縦走ルートを進むと(島田娘)。そこから一気に下り、登り返すと(濁沢大峰)で表示あり。岩岩の危険地帯を経て一気に下り、登り返すと桧尾岳山頂。三角点あり、避難小屋、駒、空木、伊那谷の展望あり。来たルート辿り、鞍部でブロッケン現象等で日輪の虹等楽しむ。島田娘の登り返しに時間がかかり、千畳敷到着は最終便 17時の15分前。来たルートと同じで戻る。

・11/4 北アルプス「十石山」晴れ 7:10~12:20(5:10)白骨温泉の旧スーパー林道口より往復。先行者を追いかけて、表示らしきを辿り遊歩道を進む。スーパー林道への道は途切れそこから十石山の登山表示。ゆるやかな尾根を淡々と進む。途中雪が出て、笹、灌木等の雪を払いながら進む。ズボンびしょ濡れで、雨具付け、勢いを増して登ると、森林限界経て笹・ハイマツの緑と登山道の雪の白が鮮やかで感動。急坂の雪道をうさぎの足跡を見ながら進むと、避難小屋。乗鞍が大きな山容を現す。小屋より少し先のピークを雪に潜りながら進み、十石山山頂。平坦な山頂で、二等三角点あり。間近に白銀の乗鞍、雪の槍・穂高、笹、焼、霞沢、さらに南アルプス、富士、八ツ、雪の白山等の展望に大感動。天候快晴で、ずっと居たいが、下山。避難小屋下で、先行の寄り道した地元の人に挨拶。山話。1時まで頂上を楽しむとのことで羨ましい。少し解け始めた雪道等を一気に下り、駐車場。白骨温泉の川端の露天風呂で汗流し帰路へ。

伝説のハイカー編。

11/21(土)、11/22(日)南アルプス3山「生木割」山頂 21日 13:30、「伝付峠」16:05、「千枚岳」22日 8:40
21日 5:15~17:20 二軒小屋山小屋泊(12:05)、22日 4:55~16:00(11:05)天候晴れ時々曇り 新倉 発電所口より大周回。登山口案内表示に沿って林道駐車し、暗い中、出発。堰堤を3つ越え進むが、暗く道不明。支流を坂登ると行けない両側岸壁の滝。引き返すより上へ、どこかに道があると信じ、急斜面のガレバをゆっくり慎重に登る、枯葉の覆う急斜面は避け、急坂尾根の木・根を確認して進み、手掛りの少ない急斜面は、四足状態でへばり付くように獣道を登り、なだらかになり、一息。沢の向こうに鉄塔及び山を確認。現在地不明。さらに獣道辿り、登っていくとまばらな樹林の下は小笹が一面の広い平坦な尾根末端(7:50)。地図で確認すると峰山尾根。藪と言う程でない尾根を上へ上へと進む(来たルートの戻りはかなり困難予想)。過去の伐採残骸、瀬戸物椀も出て、過去は使用された様子。さらに進むと立ち木にテープ。さらに登ると2本テープもあり、藪ではないので登る人がいる様子。尾根の獣道・狭い灌木の間をすり抜け、倒木を越え、体力の消耗を抑えつつ、坂を登ると稜線。南へ進むと三角点のある(保利沢山:上の切)山頂 10:50。

樹林の中だが、位置が確認でき少し安心。さらに尾根を南へ進むが、獣道も不明で樹林の中、通り易いところ進むが、右往左往して中々進まない。仕舞には、東のガレに出て、モミの小径木の密藪で進めない。尾根中の樹林帯に戻り周囲を確認。西側の間近に山の連なり、南の山は遠い。ルートを南西に修正し尾根の連なる稜線に出て、やっと本来の登山道に出会い、大安堵 12:10。荷物をデポしサブザックの空身で、縦走ルートを南下。すぐ、(天上小屋山)山頂。アップダウン繰り返し、先の小高い山へ。山腹をトラバース気味に進み、遥かな山、生木割山頂 13:30。三角点と大きな静岡県の標柱あり。CATVのアンテナも。平坦な樹林の中の山頂で一休み。奥の稜線より堰松尾山の丸い山容見えるがタイムアップで行けず、眺めるだけ。来た尾根ルート戻り荷物回収 14:40。後は、山腹トラバースの登山道を軽快に下って行く。不明稜線歩きとは雲泥の差。旧林道のモミ・岩等の道経て、現在の林道に出て、少し行くと伝付峠 16:05。明日の下り道確認し、日没前にと急ぎ足で二軒小屋へ駆けるように急ぎ下る。途中薄暗くなったが、明かり見え安堵。二軒小屋より、明日の千枚岳登山口確認し、施設確認。冬用小屋あり、先客2人(蝙蝠岳目指す、熟練の登山者)。温かい鍋、うどん、飲み物を頂き、山話。間違った登山ルートを教えてもらい感謝。一安心し 19:00 就寝。

11/22 明日の天候は知れないので、暗いうちに2人に挨拶しサブザックの軽身で出発。橋を2つ渡り、急坂を足元を確認しつつ、進む。枯葉等で道不明だが、上へ上へと登り進む。樹林の尾根となり、歩き易くなり、淡々と進む。マンノー沢頭(三角点、白根三山、蝙蝠の展望あり)を経て、南の崩壊地を眺めつつ、上へ上へと突き進むとハイマツの頂あり、直登。旧道のせいか、ハイマツ藪に苦戦しつつも頂へ。そこが、千枚岳山頂。下からその先に高く見えたのは、荒川岳の一角。三角点あり、富士、白根三山、荒川、赤石、聖、策等360度の大展望楽しむ。曇りの中の陽光。下りの通常の登山ルートは風強く、上は雨具着ける。千枚小屋分岐より、直登基点に戻り、後は来たルートを一気に下る。天気はうそのように晴れて来て、気持ちも高揚。小屋で少し重い荷物を背負い、昨日下った坂を東海フォレストの案内板に助けられ、着実に登る。晴天だったが、伝付峠手前で雲に取り囲まれた世界へ。峠で一息入れ、小笹とカラマツの道を下る。なだらかな下り。崩壊地経て沢に出る。後は、青ペンキの案内で沢の右岸を進む。ピンクテープで左岸へ渡渉。荒れた堰を横目に壊れかけた橋、ガレバ等慎重に下る。見事な滝を眺めつつ、沢分岐の東電小屋。さらに所々整備されているが、荒れた沢沿いの登山道を下る。橋を渡り、右岸に取り付き、本流を離れ、急斜面に付けられた登山道を慎重に登って行き、尾根を越える。後は、眺めるのも恐ろしい、急坂の下り。ピンクテープ、ツナロープ、黄色の丈夫なロープ便りに、足元を注意しつつ、下ってゆく。沢に下りると見覚えのある支流・堰堤。道の間違ったところに気づく。最初からこの急坂では、先が思いやられる上級者向きのルートであることを再確認。堰堤・林道経て無事戻る。暖かく、南アルプスは雪なし。富士のみ雪あり。道間違いは反省。間違いが、峰山尾根の歩き易さ、道のない稜線の歩き難さを教えてくれ、山小屋で世話になった2人も含め感謝。

11/28(土)南アルプス1山 晴れ「鳥森山」9:55~18:15(8:20)畑薙ダム沼の平ゲートより往復。電力・工事等のため、通行止め。ゲートより、林道歩き、工事・狩猟等の車が通過。茶臼への登山口、青薙への登山口を経て、5k地点で大井川本流の橋渡る。策への登山口経て、10k地点。赤石ダムの休憩場所で昼食。トンネル経て、聖岳登山口。15k地点経て進むと樫島への下り牛首で山入り。分岐より鳥森の山へ案内表示を辿る。樹間より樫島の施設を眺めつつ登る。キツネ見かけ、鹿の鳴き声、針葉・広葉樹の混交林、ミズナラの大木等を眺めながら進むとすぐ鳥森山山頂。三角点あり、雪の赤石岳等の展望を楽しみ、時間なくすぐ下山。赤石は冬風で雲の流れ早く、すぐ雲の中。牛首まで一気に下山(実質山歩き 1:30)。後は、往復35kmの林道歩きの続き。急いだため、足に負担。17時、ゲート手前5kでライト点け、足早に戻る。登山靴でのダンプ等に踏み固められた堅い林道の早歩きは、足に支障きたす。足の痛みと近場にすぐ登れる山

予定ないため、今回はここまで。登る予定の山が、遠隔地及び遠隔地の高山しかなく、4000名山歩きは、当面、冬眠状態となり、牛歩の歩みとなる見込み。

12/20(日)大阪2山 晴れ「河内飯盛山」8:10~9:30(1:20)野崎駅より急ぎ足で往復。商店街を過ぎ、寺の階段を登り、尾根、吊り橋経て七曲り分岐。ゆっくり高度上げ、分岐経て電波塔下。迂回し進むと飯盛山山頂。広い城址跡で楠木公の銅像あり。展望楽しみ、時間制約あり、すぐ下山。分岐より竹林沢コースを下る。2箇所の水場経て、合流し寺の階段を下ると余裕で野崎駅。

「交野山」10:00~15:55(5:55)やまゆき会例会参加。津田駅より河内磐船駅まで縦走。駅集合し国見山登山口より入山。夫婦岩経て(国見山)山頂、京都南の山々、街並みの展望楽しむ。遊歩道進み、白旗池で昼食・バードウォッチング。急坂登り、大岩の交野山山頂。西側の絶壁に感動。急坂下り、遊歩道経て(旗振山:三角点、鉄塔あり)山頂。キャンプ場、(竜王山)、神社経て集落に出て磐船駅に。その後、忘年会に参加。晴天の中、久し振りに大勢の山歩きを堪能。

・沢山の山話・近況等話ができ大満足。参加者全員に感謝。

12/28,29 休み取り、遠征。

・12/28(火)岐阜南・三重北部2山「烏帽子岳」山頂10:30「三国岳」同13:00 9:05~15:55(6:50)岐阜細野登山口より往復。雨パラツキ、雨具付け出発。植林地・ゲート経て入山。常緑樹の林を進み、尾根の急坂経て烏帽子岳山頂。三角点あり、青空・陽光・風が心地よい。積雪5cm。尾根の奥のピークよりテープのある方に下っていくと反射板のある平坦な(狗留尊山)山頂。間違いに気づき、ピークに戻り、時山ルートへ。途中の分岐より西のやせ尾根の岩岩等を辿り、アップダウン繰り返し三国岳山頂表示。最高点はさらに西へ。山頂は樹林の中(積雪10cm)雲等で視界なし。戻りは冬風に吹かれつつ、やせ尾根岩等慎重に辿り、下山。夕方やや天候回復。

・12/30(水)滋賀東3山。「鍋尻山」7:15~9:50(2:35)冬場道路通行止めのため、山女原登山口より往復。鉄橋渡り、民家脇の赤テープより入山。昔整備された道を辿り、電波のアンテナまで出ると尾根。猿撃退のためか、下で爆竹の音がする。尾根伝いに進み、植林地経て道不明な斜面を登り、平坦地。さらに急坂・岩岩等経て平坦な鍋尻山山頂。三角点あり、樹林の中で、雲で視界なし。積雪5cm。雪歩き楽しみながら、来たルートを下山。

「天狗堂」11:30~13:50(2:20)曇り 君ヶ畑バス停脇に駐車。年越しの準備している神社方々に挨拶し神社脇より山入り。植林地等の急斜面を辿り登る。緩やかになり、林業作業道を左に見つつ、急坂を登ると天狗堂の山頂表示。さらに奥に進むと、ピークの展望岩。山々の眺めよい。積雪5cm。来たルート戻る。急坂で一度転ぶも大事に至らず、ズボンの汚れで済む。その後は慎重に下る。

「日本コバ」14:20~17:15(2:55)登山口分からず、地元の人に教えてもらい藤川谷コースを往復。下見の気持ちだが、行けるところまでと急ぐ。苔の見事な神社を経て、沢沿いを2度渡渉等して植林地等の平坦な道、沢沿いの急斜面のトラバース道等進む。沢は暗くなるとさらに分かりにくくなるので急ぐ。200m毎の案内表示に助けられ、中間まで快調。急な大きな岩岩を慎重に登ると政所コースと合流。後は、なだらかな丘歩きで、すぐ日本コバ山頂。三角点ある平坦な山頂、積雪5cm。夕日を楽しみ、急ぎ足で戻る。急斜面岩岩は慎重に、急げ急げで淡々と下り、苔の美しい神社にお参りし薄暮までに何とか戻る。

・12/31(木)滋賀東3山「銚子ケロ」6:55~10:25(3:30)小型水力発電のあるR421より金網明け入山。すぐ神社が上方にあり。植林地を進む。200m毎の案内表示に助けられ、平坦なトラバース道、尾根等辿る。急坂経て尾根に出てさらに進むと東峰。さらに進むと銚子ケロ山頂。三角点あり、積雪3cm。晴天で、山々の眺め、冬風心地よい。同じルート戻る。今まで誰とも合わなかったが、途中登山者1名あり、気づかず、道

を譲られる失態。・全般に雪少なく助けられる。

・今年1年間、山は244山登り、山入り93日。難関の北海道日高山脈南部、北ア:3大岩壁の山及び硫黄岳の藪山を無事登れて、かなり満足の1年。

12/31(木)抜けた分

「カクレグラ」10:50～15:20(4:30)R421 佐目子谷口より往復。作業道終点より、中部電力鉄塔道利用。NO167 鉄塔経て後は、道不明。已む無く、急坂の尾根進むも、茨に大苦戦。体力を消耗。植林地等の急坂をホウホウの体で何とか登り、1P。頂上かの確認に手間取り、寒気に気持ちが萎縮。先に高い山あり、そちらへ向かう。すぐピーク着。そこが、カクレグラ(隠嶮:水谷岳)山頂。二等三角点。山々の展望あり、一息入れ、来たルート戻る。茨は難なく通過して。

「竜王山」16:15～17:20(1:05)西明寺の方に登山口教えてもらい、登山口近くに駐車し急ぎ足で急坂登り、尾根。急坂の階段を経て竜王山山頂。三角点あり、綿向山、近江平野等の展望良い。急ぎ足で薄暮に戻る。